



聖徒の道

11
1998

末日聖徒イエス・キリスト教会

聖徒の道



表紙

本誌「実り豊かな結婚生活を送るために」(26ページ)では、何人かの末日聖徒が、結婚生活を強め、守っていくために福音の原則を取り入れることから得られた有益な考えを分かち合っている。(写真/ブライアン・K・ケリー)

こどものページ

「あなたの手、どうしたの」ハリイ・アンダーソン画。レビュー・アンド・ヘラルド出版協会版権所有。

一般

- 2 大管長会メッセージ——靈感を伝える言葉
大管長 ゴードン・B・ヒンクレー
- 14 「あなたは隣人について、偽証してはならない」 ロバート・J・マシューズ
- 25 家庭訪問メッセージ——「わたしがあなたがたを癒すことができるように」
- 26 実り豊かな結婚生活を送るために
- 32 違いを生み出すのはあなた——ポール・コックス 神の創造物を守る
アン・ピリングス

青少年

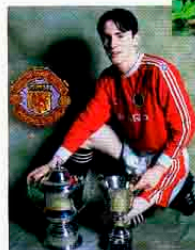
- 8 御霊に導かれて ローナル・ナバロー・グーチエレス
- 10 光の都 リチャード・M・ロムニー
- 22 100匹目の羊 ジェームズ・エドワード・ペダーセン
- 38 質議応答——日々の生活の中で遭遇する否定的な影響力に立ち向かうにはどうしたらよいでしょうか。
- 42 主を第一に置く リンダ・パン・オーデン
- 46 あなたの選び 十二使徒定員会会員 ジョセフ・B・ワースリン

こどものページ

- 2 草原の火事 レベッカ・トッド
- 5 感謝の心 第二副管長 ジェームズ・E・ファウスト
- 6 分かち合いの時間——「ありがとう」のことば シドニー・レイノルズ
- 8 小さなみんなのために——思い出したロベルト
マシュー・ケニングトン, ダニエル・ケニングトン
- 10 イスラエルのたみを教えるモーセ ビビアン・ポールセン
- 12 イエスのように——模範を示す ナタリー・ルーシ・シルバ
- 14 イエス様が望んでおられること
D・J・シャーウッド, リンダ・シャーウッド



32ページ参照



46ページ参照

42ページ参照



10ページ参照



本誌は、末日聖徒イエス・キリスト教会の国際機関誌で、以下の言語で出版されています。

月刊—イタリア語、英語、オランダ語、韓国語、サモア語、スウェーデン語、スペイン語、中国語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、ノルウェー語、フィンランド語、フランス語、ポルトガル語。隔月刊—インドネシア語、タイ語。季刊—アイスランド語、ウクライナ語、ギルバート語、セブアノ語、タガログ語、チェコ語、ハンガリー語、フィジー語、ブルガリア語、ベトナム語、ポーランド語、ルーマニア語、ロシア語。(五十音順)

大管長会：ゴードン・B・ヒンクレー、トーマス・S・モンソン、ジェームズ・E・ファウスト

十二使徒定員会：ボイド・K・バックナー、L・トム・ペリー、デビッド・B・ヘイト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、ヘンリー・B・アイルینگ

編集長：ジャック・H・ゴーズリンド

顧問：ジェイ・E・ジェンセン、ジョン・M・マドセン

教科課程管理部責任者

実務部長：ロナルド・L・ナイトン

企画・編集ディレクター：ブライアン・K・ケリー
グラフィックスディレクター：アラン・R・ロイボーク

国際機関誌スタッフ

編集主幹：マービン・K・ガードナー

編集主幹補佐：R・バル・ジョンソン

編集副主幹：デビッド・ミッチェル

編集補佐：ジェニファー・グリーンウッド

工程管理：ベス・デーリー

出版補佐：コニー・シェークスピア

デザインスタッフ

機関誌グラフィックスマネージャー：M・M・カワサキ

アートディレクター：スコット・バン・カンベン

デザイナー主任：シェリー・クック

制作主幹：ジェーン・アン・ピーターズ

制作：レジナルド・J・クリステンセン、デニス・カービー、ジェーン・L・マンフォード、

タッド・R・ピーターソン

デジタルプリプレス：ジェフ・マーティン

予約購読スタッフ

ディレクター：ケイ・W・ブリッグス

配送部長：クリス・クリステンセン

マーケティング部長：ジョイス・ハンセン

●定期購読は、『聖徒の道』予約申し込み用紙でお申し込みになるか、または現金書留か郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●『聖徒の道』のお申し込み・配送についてのお問い合わせ…〒133-0057東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター ☎03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会

〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30

電話 03-3440-2351

印刷所 株式会社 リック

定価 年間予約/海外予約2,400円(送料共)

半年予約1,200円(送料共)

普通号/大会号200円

英語版承認—1996年8月 翻訳承認—1996年8月

原題—International Magazines November,

1998. Japanese. 98991 300

November 1998 no. 11, SEITO NO MACHI (ISSN 0385-7670) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, UT 84150, U.S.A. subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$14.00. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; changes cannot be made unless both old and new address are included. Send U.S.A. and Canadian subscriptions and queries to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone.

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.



新しい見方

「わたしのほかに、なにものをも神としてはならない」という記事を、1998年2月号の『リアホナ』(スペイン語版)で読み、著者のマイケル・ウィルコックス兄弟に感謝の気持ちを伝えたくまりました。それまで反対の物事は、単に正しい選択を学ぶための手段でしかないと考えていました。しかし、この記事のおかげで、神聖な属性を身に付ける大切な機会にもなるという別の見方ができるようになりました。また、同じ号に掲載されたロバート・L・ミレットの「人間アダム」という記事にも感謝しています。よく書かれており、興味深く読みました。この二つの記事を読んでいて、御霊を感じました。

ホンジュラス・コマヤグア伝道部

ナバロ長老

隅から隅まで

いつも『リアホナ』(英語版)を隅から隅まで読んでいます。子供向けに書かれた「こどものページ」も読みます。機関誌から世界各地に住む、すばらしい聖徒の記事を読むと、深い感銘を受けます。青少年向けの記事にはいつも霊を鼓舞されます。生ける預言者からのメッセージに対してはなおさらのことです。わたしは、書かれている原則を、暮らしの中で応用するようにしています。

フィリピン・サンファビアンステーク、

マパンダンワード

ビオレタ・デ・トマス・セレイノ

語学力を保つ

わたしは、『オ・レ・リアホナ』(サモア語版)を、断続的にはありましたが、23年間定期購読してきました。伝道中に身に付けた語学力を保つのに役立てばと思つてのことです。教会は数多くの夫婦宣教師を必要としているのですから、わたしたち会員は語学力の向上と維持を心がけるべきではないでしょうか。そのためにも、国際機関誌の他言語版を予約購読するのはとても良い方法です。住んでいる地域にかかわらず、どの言語の版でも購読できることを知らない人も多いのではないのでしょうか。

ここ、スウェーデン・ウブサラ支部の支部長はわたしに、『ノルドシュテルナン』(スウェーデン語版。「北極星」の意)を月刊誌として存続させるには、定期購読数を増やさなければならないと語りました。支部長は、「わたしたちは預言者の言葉を聞く必要があります。ですから、プレゼント用の予約購読を、皆さんに検討していただきたいのです」と述べました。その言葉に非常に心を打たれ、すぐにプレゼント用として購読料を支部長に渡しました。支部やステーク内にも、同じように予約購読した会員が大勢いました。

スウェーデン・ストックホルムステーク

ウブサラ支部

ポール・コックス



編集者注—ポール・コックス兄弟についてのさらに詳しい情報と、サモアやスウェーデン、そのほか、世界各地での業績について、本誌32ページの「神の創造物を守る」に掲載されています。



靈感を伝える言葉

大管長
ゴードン・B・ヒンクレー

証

「わたしたちがイエス・キリストの福音と呼んでいるこの栄光ある事柄、この永遠の救いの計画、わたしたち全員の御父に関する永遠の事柄に対する理解を深め、活動と成長をもたらすこのプログラムを頂いていることは、わたしたちにとって何という祝福でしょう。わたしたちは非常に豊かに祝福されています。わたしたちは何と感謝すべきでしょうか。わたしがこれらの事柄について証を述べるができるように、皆さんもこれらの事柄について証を述べるができるのを、わたしは承知しています。なぜならば、わたしに権利があると同じように、皆さんにもこの御業の神聖さについて心に証を持つ権利があるからです。わたしにその証があるように確かに、皆さんも、まだその証を得ていなければ、それを得ることができるのです。皆さんが主の御言葉を読むならば、主の御言葉について深く考えるならば、主の御言葉について祈るならば、主の御業において奉仕するならば、皆さんの心の中に、この主の御業が真実であるという強いしっかりとした確信が増すことでしょう。」

教会への誠実さ

「教会に誠実であってください。教会のために敢然と立ってください。教会を擁護してください。教会のことを決して悪く言わないでください。これは神の御業です。教会をあざける者や、教会を中傷する者は、主の怒りを受け



「皆さんが
主の御言葉を読むならば、
主の御言葉について
深く考えるならば、
主の御言葉について
祈るならば、
主の御業において
奉仕するならば、
皆さんの心の中に、この
主の御業が真実であるという
強いしっかりとした確信が
増すことでしょう。」

るでしょう。この教会は主の教会だからです。教会は主イエス・キリストの神聖な御名を受けているのです。

教会は、皆さん一人一人にとってすばらしい母親のような存在です。その腕の中で、庇護と温かさ、慰め、安全を見いだすのです。

主の方には
誰が立つや
恐れず聞かん
時は至る

(「主の方には」『賛美歌』165番)

皆さんはこの偉大な大義に無関心でいることはできません。皆さんはこれを受け入れたのです。皆さんは神聖な聖約を交わしました。皆さんはこの世の学問から得た知識をもって将来何を行おうと、皆さんがバプテスマを受けたときに暗黙のうちに交わした聖約、ならびに主の晩餐の聖餐にあずかる度に更新してきた聖約の下での義務から逃れることはできないのです。』²

メルキゼデク神権の力

「メルキゼデク神権を受けることは、小さなことではありません。これは、ペテロ、ヤコブ、ヨハネの按手により預言者ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリに授けられたものです。これは、教会を治める神権です。これは、皆さんが病気の人々に主の御名によって癒しの儀式を施す神権です。これは、皆さんが祝福を授ける神権です。これは、皆さんが主の御名によって語る神権です。これを軽々しく扱ってはなり

ません。決してこれを軽々しく扱わないでください。これをいつも大切にしてください。あらゆる点でこれにふさわしく生活してください。』³

家族の関係

「天の計画の下では、夫と妻は、伴侶として並んで歩きます。一方が他方の前を行くということはありません。神の娘と神の息子は並んで歩くのです。皆さんの家族を愛と平和と幸せの家族にしましょう。子供たちを周りに集めて家庭の夕べを行い、子供たちに主の道を教え、彼らに聖文を読み聞かせ、そして全能者のこれらの言葉によって述べられたままに永遠の福音の偉大な真理を彼らに知らせてください。』⁴

青少年に寄せる信頼

「皆さんはすばらしい方々です。皆さんはかつてこの教会にいた世代の中で最も立派な世代であると、わたしは思います。皆さんほど善良な世代はありません。わたしは皆さんに大いなる信頼を寄せています。皆さんは自分が成し遂げたいと思う方法で成し遂げることができると、わたしは考えています。わたしはそのことを心から信じています。皆さんは成し遂げたいことを何でも成し遂げることができます。皆さんの前途にある世界は、広い困難な世界です。そこには、あらゆる種類のわな、すなわち皆さんを滅ぼそうとするあらゆる種類のわなが満ちています。しかし、皆さんは福音に目を留めていさえすれば、わなに掛かることはなく、笑顔をもってすばらしい道を進

んで行くことでしょう。』⁵

徳

「徳には代用品はありません。思いを徳高く保ってください。この世で皆さんの周りの至る所にある汚れから離れ、そして力強く、徳高く、敢然と立ってください。皆さんにはそれができます。そうすれば、皆さんは生涯、そのことでもっと幸せになることでしょう。神の祝福があって、皆さんがこの偉大な賜物、すなわち個人の徳の本質を大事にし、それを伸ばし、堅持することができますように。』⁶

道徳的な正しさ

「わたしの愛する友人たち、みだらな考えや自堕落、ポルノグラフィやあらゆる種類の悪が洪水のように満ちた世にあって、道徳の標準を擁護するよう、わたしは皆さんにお勧めします。第1に、わたしたちはだれもこの愚かしい行為にかかわりを持つ者となってはなりません。わたしたちはだれも、すなわち、わたしも皆さんのだれも、みだらな内容のビデオテープ、誘発的なテレビ番組、下品な映画、好色雑誌、いわゆる900番（訳注——合衆国で不道徳な内容を流している電話番号）、現在インターネットで簡単に取り込むことのできる卑わいな話などにかかわりを持つてはなりません。疫病を避けるようにそれらのものを避けてください。それらは重大な、致命的な病だからです。

違法な薬物に対する聖戦に皆さんの力を貸してください。違法な薬物の使



写真/ブライアン・K・ケリー

用が、特に青少年の間で、過去4年で倍増しています。わたしたちはどこへ向かっているのでしょうか。若人が薬物に手を出してそれを常用するようになると、多くの場合取り返しのつかない状態になり、生気が失われ、経歴が損われ、実に次世代が害を被るのです。

皆さんは手を差し伸べて、少年や少女が無謀な決断を下すのをやめさせることができます。皆さんの関心、皆さんの思いやりのある態度、皆さんの声、まことに文字どおりの意味で、命と死の違いをもたらすのです。

皆さんの仕事で、皆さんの職業で、皆さんの家庭で、また皆さんが所属している社会で誠実さを守り通してください。

もう一度申し上げます。独りになれる所に引きこもっていることや、自分が特に個人的に関心を持っている事柄だけを追い求めることでは不十分です。皆さんの力強い声が必要とされ

「子供たちを周りに集めて家庭の夕べを行い、子供たちに主の道を教え、彼らに聖文を読み聞かせ、そして全能者のこれらの言葉によって述べられたままに永遠の福音の偉大な真理を彼らに知らせてください。」





写真/ジェリー・ガーンズ

「皆さん〔宣教師〕は、……家族とともにもっと良い生活をする方法を〔人々に〕伝えます。……皆さんにはすべての男女に与えることのできる主の宮の大いなる祝福があります。この驚くべきものを受けるのにふさわしい生活をしている人は皆、神の宮に参入……することができるのです。」

ています。皆さんが取り組む姿勢の重さで十分に、はかりの針を真理の方向に向けさせることができます。」⁷

ジョセフ・スミス

「わたしは12歳のときには、ジョセフ・スミスについて多くは知りませんでしたが、ある気持ちを心の中に感じていました。その後、ジョセフ・スミスについて知るようになりました。わたしは彼の経験談を読みました。彼の証を読みました。『モルモン書』を読みました。この驚くべき教会の組織を目にしてきました。神権の力を目にしてきました。そして今、わたしはジョ

セフ・スミスを知っていると思います。『神権とみ栄えをもて、鍵を永遠に、彼持つ』(「たてえよ、主の召したまいし」『賛美歌』16番)彼は、この時満ちる神権時代に福音を回復した神の預言者です。このことを心に留めていさえすれば、わたしたちは、これがほんとうに神の御業であることを知るでしょう。」⁸

伝道の奉仕

「わたしが望んでいるのは、すべての若い男性が、どこに召されて行こうとそので世の人々に福音を教えたいという望みを心の中に持って、そのと

きのために今から用意をして、お金をため、福音の原則を学んでほしいということです。ほかの人々に伝えるのに先立って、福音の原則を知っておくことが必要なのです。この御業の神聖さについて何か疑いを抱いている人は、現在起こっている奇跡を目にするだけでよいのです。」⁹

教会の宣教師が伝える事柄

「〔宣教師である〕皆さんは、……家族とともにもっと良い生活をする方法を教会員ではない人々に伝えます。結婚しているすべての男性には、その人が得ている最良の宝は結婚相手の女性であることを認識させ、また〔結婚している〕すべての女性には、愛する夫に何をささげなければならないかを、また子供たちを愛し、養育し、祝福し、主の方法で育てなければならないことを認識させます。人々の家庭内の敬意と愛がもっと深くなれば、この国の全

状況が変わることでしょう。そして、皆さんには与えるものがあるのです。皆さんにはすべての男女に与えることのできる主の宮の大いなる祝福があります。この驚くべきものを受けるのにふさわしい生活をしている人は皆、神の宮に参入して、ある種の契約の下で神殿で結婚することができるのです。この契約は、時が損うことも、死が破ることもできないものです。命は永遠であって、それは皆さんが与えなければならぬ大いなる祝福なのです。』¹⁰

改宗者に責任を与える

「この教会に入るすべての改宗者がすぐに責任を受けるようにすべきです。ごく小さなものでもよいのです。それがその人の生涯を変えるのです。……改宗者が教会に入ったときにすぐに、もっと責任を与えないのはなぜか、わたしには理解できません。『彼らはあまりよく知らない』と、よく言われます。そうであっても、彼らに機会を与えてください。主があなたにどのような機会を与えてくださったかを考えてみてください。たとえごく小さなものであっても、何か行うことを、すなわち特別な何かを、彼らがそれによって成長できる何かを与えてください。証はあなたの腕に似ています。それは使うと強くなるのです。それを石投げの中に入れてください。それは衰えて、弱くなり、使いものにならなくなるでしょう。あなたが責任を与えないかぎり、この教会の人々は成長しないでしょう。』¹¹

教会の財政

「当教会は財政的に健全な状態です。わたしは皆さんにその確信を与えたいと望んでいます。……わたしは涙が流れそうです。什分の一と献金じゅうぶんを納める人々の信仰を見ると、時々そのように感じます。……この教会の基金は神聖であり、大切に扱わなければなりません。これは、裕福な人の贈り物であるとともに、やもめの犠牲をも表すものだからです。わたしたちは注意深く、賢明で、思慮分別を働かせ、慎重であるように、そして願わくは、靈感に促されるように努めています。しかし、それも、什分の一と献金を納める人々の信仰のおかげで可能なのです。』¹²

安息日の遵守

「人々は日曜日に物を買って安息日の神聖を汚す必要はありません。それは食料品を買うときではありません。……ほかの日に買い物をして、日曜日にそうしないとしても、何かを失うことめいそうはないでしょう。この日を、瞑想の日、聖文を読む日、家族と語り合う日、神に関する事柄をじっくりと考える日としましょう。そのようにするならば、皆さんは祝福を受けるでしょう。』¹³

注

1. ハイドパーク教会堂の再奉獻でのファイヤサイド、イギリス・ロンドン、1995年8月27日
2. プリガム・ヤング大学ディボーショナル、ユタ州プロボ、1996年9月17日
3. ソルトレーク・シュガーハウス・ステーク大会、1997年1月5日

4. ファイヤサイド、アルゼンチン・ブエノスアイレス、1996年11月12日
5. 青少年集会、ワシントンD.C.、1996年12月1日
6. 伝道集会、ユタ州ソルトレーク・シティー、1995年12月18日
7. プリガム・ヤング大学ディボーショナル、ユタ州プロボ、1996年9月17日
8. ファイヤサイド、ベルー・リマ、1996年11月9日
9. 聖餐会、ユタ・トレモントン南ステーク、プロモントリー支部、1995年10月15日
10. 宣教師集会、エルサルバドル・サンサルバドル、1997年1月23日
11. プリガム・ヤング大学既婚学生地区大会、神権指導者会、ユタ州プロボ、1996年2月10日
12. 地区大会、神権指導者会、ノースカロライナ州シャーロット、1996年2月24日
13. 地区大会、ユタ州サウスジョーダン、1997年3月2日

ホームティーチャーへの提案

-
1. 主は御自分の僕しもべたちが語ることに ついて、次のように述べておられる。「そして、何であろうと聖霊に感じて語ることは、……主の心となり、主の思いとなり、主の言葉となり、主の声となり、救いを得させる神の力となる。」(教義と聖約68:4)
 2. これらの抜粋の中から、あなたがホームティーチングを行っている個人と家族を強め、祝福すると思われるものを、祈りの気持ちをもって選ぶ。□

ペルー・チクラヨ伝道部に着いたとき、わたしの唯一の願いは忠実に熱心に働いて、福音を受け入れる備えのできた人々を見つけることでした。毎朝、同僚とわたしはともにひざまずいて祈り、救い主を求めている人々を見つげられるように願い求めました。わたしたちの祈りは何度もこたえられました。

伝道に出てからおよそ18か月が過ぎたころ、わたしはペルー・チクラヨ・エルドラドステークのロスプロセレスワードに転任しました。同僚とわたしは彼が前の同僚と一緒にしていた伝道方法で働き始めました。ある朝、伝道に出かけようとしたとき、約束がまったくないことに気づき、会員から友達を紹介してもらうことにしました。

会員の家に行く途中、わたしたちはある通りを横切りました。そのとき、わたしは非常に特別な気持ちを感じました。そして、主がわたしたちに、その通りに面している家々を訪ねるよう望んでおられることを悟りました。同僚にこの気持ちを話し、戸別訪問することを提案すると、彼も賛成してくれました。

わたしたちはそのブロックの最初の3軒をノックしましたが、すべて断られました。この反応に同僚はとてものがっかりしてしまい、会員から友達を紹介してもらおうという当初の計画に戻りたくなくなりました。彼の気持ちを知り、わたしはとりあえず彼に賛成しましたが、自分が先に感じた気持ちを決して否定することはできませんでした。

その月の下旬に同僚は転任し、新たにメイウィー長老がわたしと働くことになりました。最初の夜は彼の荷物の整理などを手伝いましたが、翌朝、早速、特別な気持ちを感じたあの通りに彼を連れて行きました。そこでわたしの感じたことについて彼に話しました。彼は、ともにその通りを一軒ずつノックすることに同意してくれました。

こうしてわたしたちは戸別訪問を始めました。前と同じように、最初の数軒では断られましたが、わたしたちは最後まで続けよう決心していました。やがて、わたしたちはケイサダ・セリータ家にやってきました。ドアに出て来た奥さんはわたしたちを中に招いてくれました。そしてわたしたちは彼女に最初のレッスンを教えました。

み た ま

御霊に導かれて

ローナル・ナバロー・グーチエレス

絵：マーク・ロ・イマー



彼女はそのメッセージにとっても感動したようでした。2日後、わたしたちのご主人と会えることを願いつつ、再びセリータ家を訪ねました。ご主人もわたしたちの話聞いてくれることになり、もう一つのレッスンを教えました。今回は家族全員が聞いてくれました。

それがすばらしい経験の始まりでした。時間がたつにつれて、この通りに住む多くの家族がレッスンを聞いてみようと思うようになったのです。レッスンを聞きに来るすべての人が参加できるよう、ベンチを外に用意し、道路に置いたスクリーンにスライドを写さなければならなかったほどです。わたしたちのメッセージを聞きに来た大勢の人と話しているとき、わたしたちはまるでいしへの使徒にでもなったかのように感じました。この出来事を通じてわたしたちは大きな喜びを得ることができました。

教会に向かうのも胸躍る経験でした。この通りの人たちを教会堂に連れて行くためには4、5台のタクシーが必要でしたし、礼拝堂の長いすは彼らだけで4列もいっぱい

になるほどでした。メイウィー長老と一緒に働いた3か月の間にわたしたちは約50人にバプテスマを施しました。この人々の名前はわたしの日記に、そして心にも刻まれています。

後で聞いたのですが、わたしたちが「モルモンストリート」と名付けたあの通りは新しい教会のユニットの一部になったそうです。またそのときわたしたちがバプテスマを施した家族は、今も活発に教会に集まっているとのこと。このことを思うと、わたしの心は喜びでいっぱいになります。

伝道も終わり、わたしはペルーのイカという町にある実家に帰りました。今でもいろいろとチャレンジはあります。しかし伝道中に得られた経験がわたしに力を与えてくれます。伝道中、わたしは主に聞き従うことを学びました。ニーファイと同じように、主の御心を行おうと努めるときに、わたしも「前もって自分のなすべきことを知らないまま、御霊に導かれ」ることができるのです(1ニーファイ4:6)。□



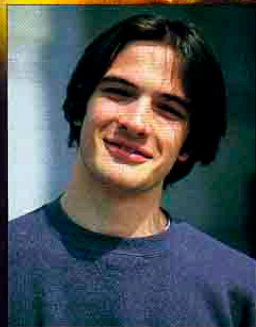
光の都

文・写真／リチャード・M・ロムニー

フランスのパリでは、末日聖徒の青少年が、昔から呼ばれてきた同市のニックネームに新たな意味を付け加えています。

ニックネームが付けられているのは人だけではありません。多くの都市にも特色を表すニックネームが付けられています。例えば、シカゴは風の都として知られています。ニューヨークはビッグアップルと呼ばれ、ローマを永遠の都市と呼ぶ人もいます。

パリのニックネームは光の都です。ある伝説によれば、古代のパリは周囲に城壁を巡らしていました。要塞部分と主要な門に続く道にはかがり火がともされていました。町を訪れる人々を歓迎するこれらのかがり火は闇を追い払い、旅人に対して安全な場所を目前にしていることを知らせました。その後数世紀を経てパリは、文化と教育の中心地として果たしてきた役割を指して光の都とも呼ばれるようになりました。今日、市内にある数々の壮大な宮殿と記念碑を映し出す投光照明灯を指していると言う人もいます。





パリは何世紀にもわたり優れた教育と文化を追求する人々にとって旗印となってきた。ピーター・カブラ、フランシーヌ・ペテロ、ロエク・ゴメスのように、今日パリに住む末日聖徒の若人にとって、パリは福音の真理という光を見いだす地となっている。背景——有名なエリーゼ宮の西端にあるパリ市内の名所、凱旋門。

新たな意味を付け加える

パリに住む末日聖徒の青少年はこのニックネームに新たな意味を加えています。彼らは真理を学び、真理に従って生活することによって彼ら自身の旗を光の都に掲げています。それは正直な心という旗印です。周囲の若人は彼らの模範が放つ輝きを見て、その模範に従っています。フランス・パリステークの若い男性たちと一人の若い女性、それに数人の成人指導者を加えた一団が風の強いある日の朝、凱旋門の前に集まりました。彼らはそこからエッフェル塔まで散歩する間、その光について話し合っていました。彼らはアロン神権について、また若い女性が福音を通して受けられる祝福について、さらには、ほかの人たちが道と真理と光を見いだすのを助けるためにフランスの青少年が果たさなければならない役割について話し合いました。

「アロン神権を受けることには大きな責任が伴います」と18歳のピーター・カブラは言います。「神権を受けることは、すべての戒めを守ると約束することになるからです。つまり、祭司としてバプテスマを執行する場合であれ、執事として聖餐のパンと水をパスする場合であれ、神の御名によって行動すること、正しい模範を示すことを承諾するのです。」

同じ目標

パリは数百万の人口を持つ大都会です。「このように巨大な都市においても、わたしたちは同年代の若人とは違う青少年になることができます。なぜならわたしたちはアロン神権を受けているからです。わたしたちは兄弟として霊的に成長し、永遠の救いに到達するという同じ目標を持っています」とピーターは説明しています。

けれどもこれだけではありません。「わたしたちにはほかの人々に奉仕する責任があります」と15歳のギョーム・ガバは説明しています。「わたしたちはイエス・キリストだったらこうされると思うことを人々に行わなければなりません。わたしはだれかに善いことをしたときにとっても満足した気持ちを覚えます。その幸福感を何度



も味わいたいために、また善いことをしようという気持ちになります。心の中に幸福な気持ちを抱いて毎日を過ごすのはすばらしいことです。」

18歳のエルバ・N・ソネもギョームの意見に賛成です。「アロン神権を受けることは主の力、主の御名によって行う力を受けることです。主がわたしたちを地上に置かれたのは、わたしたちが人々に仕えられるようになるためです。」



アロン神権には物質的だけでなく霊的な義務も含まれるとエルバは言います。「聖餐が正しく準備され、パスされていることを確認し、礼拝堂が完全に清潔な状態であることを確認します。そして、全員が敬虔な態度で聖餐会に参加できるように手助けします。教会に初めて来た一人一人を

歓迎して、寂しい思いをする人が一人もないようにします。また一人一人が神の息子または娘であり、大切な存在であることを理解できるように助けます。わたしたちは教会のすべての人に関心を向け、助けの手を差し伸べるとともにお互いに関心を寄せるように励ましています。」

まことの兄弟

サン・トゥアンワードのマルソー・ラバルは7か月前に執事に聖任されました。12歳のこの少年はアロン神権にはさらに次のような義務があることを説明しています。「ほくたちのワードでは、毎週日曜日、教会に来る人々を歓迎する責任は執事に与えられています。わたしたちはまた、監督のメッセンジャーを務めます。監督から頼まれることを何でもできるように準備しています。書記が出席人数を数えるのを手伝うのもわたしたちの責任です。出席していない人の家を訪問して、病気や何かの問題で困っていないかどうかを確認めます。彼らに活動について知らせ、次の機会には出席するように励ましています。」

13歳のロエク・ゴメスはアントニーワードの執事定員会会長です。ロエクはアロン神権の好きなところは「わたしたちがほんとうの兄弟だからです」と言います。

「わたしたちはお互いに助け合っています」とロエクは説明しています。「問題を抱えている人がいれば、だれかが助けに行きます。」執事定員会のメンバーは活発

な会員が二人、あまり活発でない会員が一人です。これは教師や祭司が何かと心を配り、助けていることを意味しています。「神権というのはただ話し合うことではありません」とロエクは付け加えています。「それはわたしたちが生活の中で実践していくものです。」

集会に出席していない一人の執事を活発化させるためには多くの労力が必要とされます。「以前は集会に来ていました。彼に何があったか分かりません」とロエクは説明しています。「そこでわたしたちは手紙を書きました。訪問して、心配していることを彼に伝えました。早く戻って来ることを願っています。」

神の娘たち

18歳のフランシーヌ・ペテロはアントニーワードに所属するローレルです。彼女は若い男性たちが話すのをほほえみながら聞いています。「彼らは確かに神の力を持っています」とフランシーヌは言います。「神の力によって彼らの生活は大きく変わりました。同年代の少年たちとはすることが違います。彼らは最高の原則に従って



行動しています。』

では、ワードの若い女性はどのような生活をしているのでしょうか。「わたしたちは神の娘です」とフランシーヌは続けて話しています。「神の娘であることを知っているわたしたちは物の見方や理解の仕方が違います。わたしたちは神権の祝福を十分に分かち合っています。家族に神権者がいるといないとは大きな違いがあります。わたしが大切に考えている目標の一つは、神権の力によって神殿で結婚することです。」

マルティーニ・ペテロはフランシーヌのお姉さんです。マルティーニはワードの若い女性会長です。

「ワードの若い女性の多くは、家族が教会員ではないため、教会に来る彼女たちを家族が支えてくれるわけでもありませんし、一緒に教会へ来るわけでもありません」とマルティーニは話しています。「けれども若い姉妹たちは毎週教会に来ます。大変な努力をして自分の力で教会に来ています。自分自身の証^{あかし}でしっかりと立たなければならないことを学んできました。姉妹たちは教会を愛しています。ステーク大会やユースカンファレンスには必ず出席します。どんなことにも非常に熱心です。若い女性は自分で考えた案を持ち寄って、活動の計画を立てます。ほかの人が

ら楽しませてもらうことを期待して活動に参加しているわけではありません。自分から楽しもうとしています。若い女性はパリという非常に誘惑の多い都会で生活していますが、立派に信仰を守り通しています。』

光を見いだす

たとえ、光の都に住んでいる人であっても、罪の暗闇^{くらやみ}から逃れる方法を学ばなければなりません。悪を退ける人々にとって福音の光は輝きとなり、また温かく包み込んでくれるものとなります。古代パリの城壁に据えられたかがり火のように、福音の光は闇を追い払ってくれます。そして、心の清い者たちが住む安全な場所にいることをわたしたちに知らせてくれます。

そのような場所にはもう一つの名前があります。それはシオンという名です。

□



エッフェル塔の前に立つエルバ・N・ソネ（左端）、ギョーム・ガバとマルソー・ラバル（左）はアロン神権者として兄弟愛をはぐくんでいる。背景——エリーゼ宮の東端にあるコンコルドの噴水。上中央——パリ市内を流れるセーヌ川に架けられている多くの橋の一つ。

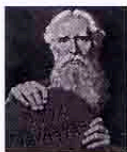




「あなたは隣人について、偽証してはならない」

ロバート・J・マシューズ

わたしたちは9番目の戒めに従順になることによって、偽りがもたらす恐れ、不安、疑い、悩み、そして最後にやって来る罪の宣告から免れることができます。



一人の若者がいました。彼は職場で、それまで1年と少しの間働いていました。パートタイマーだった彼はそ

の組織の中でも非常に有能な管理者の下で働いていて、もっとやりがいがあり、満足できるフルタイムの仕事に回してもらえればと望んでいました。

そんなある日、若者はその担当の上司と一緒に、さらに上のクラスのマネージャーと仕事の話をしました。そしてこのとき、彼はその上司に対して持っていた信頼をすべて覆されてしまいました。マネージャーは若者が書いた

偽証には様々な形がある。

ヨセフの兄弟たちは20年にわたってうそを通し、真実を隠して、父ヤコブにヨセフは死んだものと思わせ続けた。

報告書の内容をひどく非難しました。その報告書については、上司が目を通し、今マネージャーが問題として指摘している箇所を自分で書き変えていたのですが、彼はそのことは何も言わず、何の助けもくれませんでした。

「でも、わたしが最初に報告書を書いた時点では、その件をちゃんと処理していました。」若者はそう言いながら、上司の顔を見ました。すると「わたしはそれについては何も読んだ覚えがないよ」という答えが返ってきました。

若者は自分が書いたことについて確信を持っていました。その日、その上司が帰ってから、彼は書類の保管庫のある所へ行きました。そこには全従業員の提出する報告書がファイルされていました。あの問題の報告書を除いて、すべての書類が適切な場所に、正しい順番で保管されていました。その報告書だけがなくなっていたのです。

その日以来、若者は自分が書く書類については必ずコピーを取っておくように注意しました。彼はその上司とは仕事上の必要に応じてともに働きましたが、重要度の低い仕事で、もう一人の人の管理下で働くこともありました。彼はその人が正直な人物であることは知っていましたが、上司は疑うべきものだという考えは変えようとしま

せんでした。上司のうそによって、彼の生き方が変わってしまったのです。

「あなたは隣人について、偽証してはならない」という教えは（出エジプト20：16）、イスラエルの子らを治め、彼らに祝福をもたらすために、モーセに与えられた十戒の中の9番目の戒めでした。しかし順位が低いから、ほかの戒めと比べて重要度が低いというわけではありません。この戒めがないがしろにされると、平安、安全、信頼、安定などが危ういものになってしまいます。

この戒めを破ることは、人に分かりさえしなければ、多少事実を曲げても構わないということを悪い模範によって子供に教えるのと同じで、潜行的な害毒があります。それは、罪のない人に罰を与えるというような、非常に危険な結果をもたらす可能性があります。どのような場合でも、偽証は人の心をむしばみ、社会の存立基盤であり、お互いを一つに結ぶ信頼のきずなを断ち切ってしまいます。うそを言うことは、偽証の一つの形にすぎません。

神と人を愛するがゆえに

十戒は大きく二つに分類することができます。最初の4つは、人と神との関係に焦点を当てた戒めであり、残り

の4つは、人間同士の関係に関するものです。両親を尊びなさいという5番目の戒めは天の両親に対する義務を、地上の親への義務に自然な形で置き換えて表現したものです。

この類似した二つの分類の仕方は、救い主が「先生、律法の中で、どのいましめがいちばん大切なのですか」という質問に答えられたときの言葉の中にも見ることができます。

主はこう答えられました。

「『心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ。』

これがいちばん大切な、第一のいましめである。

第二もこれと同様である、『自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ。』

これらの二つのいましめに、律法全体と預言者とが、かかっている。(マタイ22:36-40)

このように、偽証をしてはならないという戒めへの従順は、神への愛と人への愛の双方に根ざしたものでなければなりません。しかし、この9番目の戒めに対する違背は、非常に多く見受けられる罪です。十二使徒定員会のアダムス・S・ベニオン長老(1886-1958年)は次のように書いています。「律法に関して言えば、それぞれ命、道徳、財産にかかわっている、殺人、姦淫、盗みの罪は、一般的に偽証と比較してより重大な罪と考えられている。しかし、偽証の罪はその深刻さにおいてさほどではないと見る向きがあるかもしれないが、広範に見受けられ

るという点においては、殺人、姦淫、盗みの罪をしのいでいるのである。」(“The Ninth Commandment”*The Ten Commandments Today*「9番目の戒め」こんにち『今日の十戒』134)



**サツピラとアナニヤは、
主から権能を授けられた僕を
欺こうとして、惨めな末路を遂げた。
それは、神に偽りを言うのに
等しい行為だった。**

偽証をすれば名声や評判を損なうことにもなります。悪意をもって偽証するのは、シェークスピアのオセロに描かれている誹謗中傷ひぼうに等しい罪なのです。

「財布なら盗まれてもいい、大金であつてもたいしたことはない、自分のものがそいつのものになるだけです。どうせ金は天下の回りものだからな。ところが名誉となると、盗んだやつにはなんの得にもならない

のに、盗まれるほうは大損です。」(『オセロ』第3幕第3場、『シェークスピア全集』白水社、小田島雄志訳、4:274)

真実以外のことは何も言わない

「偽証してはならない」という戒めが、うそをでっち上げることを禁じているだけのものでないことは明らかです。この戒めは、法廷などにおいて真実を述べるように求められた場合には、正直にごまかしの返答をしなければならないと命じています。この9番目の戒めが求めるものには広い意味があり、あらゆる形のうそやごまかしを禁じています。わたしたちが口にする言葉は事実と一致したものでなければなりません。

この戒めを破った興味深い例が、使徒行伝の中に書かれています。当時の「信者たちはみな一緒にいて、いっさいの物を共有にし、

資産や持ち物を売っては、必要に応じてみんなの者に分け与えた。」(使徒2:44-45)

しかし使徒行伝第5章1節から11節には、次のような例が書かれています。アナニヤとその妻サツピラは資産を売ったが、「その代金をごまかし」(2節)売却額を実際よりも少なく伝えようと共謀しました。ペテロはそのうそを見破り、アナニヤにこう言いました。「あなたは人を欺いたのではなくて、神を欺いたのだ。」(4節)

アナニヤとサツピラは「いっさいの物の共有」に関して神聖な聖約を交わしていたにもかかわらず、共謀してそ



**悲しいことに、イエス・キリストに
罪を宣告した人々は、
その偽証によって、
自分たちが冒していた戒めの
創始者御自身に
根も葉もない告発を浴びせるという
皮肉な行為を演じた。**

れを破り、偽証しました。二人は自らの意志をもって、主から権能を授けられていたペテロを欺こうとしました。それは神御自身を欺くに等しい行為でした。彼らを待っていたのは悲惨な末路でした。二人はすぐに息絶えてしまったのです。偽証の罪によってこのような罰を受けるのはきわめてまれなことですが、この事件はアナニヤとサツピラの行いが由々しい問題であり、明らかに主が重大な教訓を与えようとしたことあかしの証であると言えます。(主が末日聖徒と交わされた同じ聖約をどれほど重視しておられるかを理解するために、教義と聖約42：30-34；82：11-21；104：1-8を参照してください。)

このように、9番目の戒めは、聖約や誓詞を破ること、また、誇大な表現、ひどくあいまいな表現、作り事、事実によらない恣意的陳述などを含めた、あらゆる形の偽りを禁ずる明確な宣言なのです。真実の一部しか言わないことも、それによって真実の全体像が見えなくなるとすれば、うそを言うのと同じ効果を持ち得ます。特に、ほかの人々の判断を誤らせる恐れがあるにもかかわらず、もっと正確な理解を得さ

せることのできる情報を隠したり、口をつぐんだりするなら、偽証の罪に問われかねません。このような場合には、実際にうそを言ったと同じ結果になります。

ヨセフの兄弟たちも父ヤコブに、彼が死んだと信じ込ませることにより、偽証の罪を犯し、真実を覆い隠しました。ヨセフが奴隷としてエジプトに連れ去られてから、兄弟たちは彼の衣にやぎの血を付け、それを父のところへ持って行き、こう言いました。

『わたしたちはこれを見つけましたが、これはあなたの子の着物か、どうか見さだめてください。』

父はこれを見さだめて言った、『わが子の着物だ。悪い獣が彼を食ったのだ。確かにヨセフはかみ裂かれたのだ。』(創世37:32-33)

ヨセフの兄弟たちは20年にわたって、父親にそのうそを信じたままの生活を続けさせました。

「それは彼にとって罪である」

うそや偽りはどのような形であれ、^{ゆる}赦されるものではなく、正当化できるものでもありません。そして、自分の口をつぐみ、悪がまかり通るのを問題ともせず、ただ見ているのも悪であることに変わりありません。ヤコブはこう教えています。「人が、なすべき善を知りながら行わなければ、それは彼にとって罪である。」(ヤコブの手紙4:17)それを基本として考えると、だれかが中傷されたり、悪く言われたりしているのを耳にした場合、また正しからざることが行われているという

ことを知った場合、わたしたちには、道義的にも聖文に照らしてみても、勇気をもって、名誉を傷つけられているその人を擁護する責任があります。そのようなときに口をつぐむのは、自分



偽りは人の評判を落としたり、心を傷つけたり、生涯を台なしにしたりすることがある。無実であるにもかかわらず、偽証によって27年間獄中生活を強いられた女性もいる。

自身を欺くのと同じことです。ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、十二使徒定員会の会員だったときに、この問題について次のように話しています。

「先日のテレビに、27年も刑務所暮らしをした婦人の話があった。ほかの人々の偽証によって有罪とされたことが、最近それらの証人の告白によって明らかとなったのである。これは極端な例だとは思いますが、皆さんはうその証言によって評判を落とされたり、心を

傷つけられたり、生涯を台なしにされたりした例を知らないだろうか。」「(正直な人、神の最高の傑作)『聖徒の道』1976年8月号、377)

中古車を高く売るために走行距離計の数字をごまかす、子供の年齢をごまかしてチケットを安く買う、試験でカンニングをする、していない仕事に就いて代金の請求をするなど、偽証の実例は現代社会のあらゆるところに見受けられます。

ある友人から、彼がひいきにしていた会社との取引を一切やめる原因になった一つの経験を聞いたことがあります。彼はその会社から1通のダイレクトメールを受け取りました。中には、指定の代理店に行けば、オイル交換を無料で行うという優待券が入っていました。オイル交換の作業が終わってから、彼はオイル代の請求書を渡されました。話が違うと言うと、無料なのは交換作業の分だけで、オイルは有料だという返事が返ってきました。優待券の文言の解釈も、また法律的に見ても、向こうの言い分に問題はなかったのかもしれませんが、彼はだまされたと感じて、二度とその会社へは行かないようにしました。

広告主や企業、また個人にしても、人を惑わすために、言葉を濁したり、あいまいな言い方をしたり、飾り立てた表現を用いたりすることがよくあります。よく見受けられるのは、長たらくて、あまり聞き慣れない、訳の分からない専門的な言葉を用いて、実体以上のものがあるという印象を持たせるやり方です。印刷の文字の大きさを



いろいろに変えたり、何の関係もない写真やイラスト、誤解を招くような表を入れたりするなどして、言葉を実体以上に飾り立てる方法は、だましの手口としてよく用いられる方法です。わたしたちは、それを見破り、個人的なまた金銭的な利益を得るためには偽証をもちとわないたくらみに乗せられないように注意しなければなりません。

イエスが弟子たちに、口にする言葉はただ「しかり、しかり」あるいは「否、否」であるべきだと命じられたのは、恐らくこれらの巧妙な欺きや偽証をなくするためだったのでしょう（マタイ5：33-37参照）。話す言葉が簡潔であれば、自分自身を容易に理解

してもらえ、問題が面倒になるのを防ぎ、心を正直に保つことができます。

十分な預金残高がないのに小切手を振り出したり、最初から守るつもりがないのに約束をしたりするような行為が、主の不興を招き、正直な人々の感情を損なうのは明らかだと思います。末日聖徒の行動基準として容認できるのは、もっと次元が高いものです。それは、悪の兆しでさえも遠ざけるようにわたしたちに求めています（1テサロニケ5：22参照）。

ある末日聖徒の女性は、娘と一緒に買い物をした後で、この原則の大切さを痛感しました。二人が行った店に陳列されていたリボンのパッケージに

現代社会においては、疑うことを知らない人々をだますために、言葉の意味がねじ曲げて用いられることが非常に多い。わたしたちはそのような偽りに対して、常に油断なく警戒しなければならない。

は、様々な色のリボンが組み合わせて入っていました。しかし気に入った組み合わせのパッケージが一つもありません。パッケージを開けて、また入れ直すことはできました。それで、その母親は、一つのパッケージから要らないリボンを取り出し、それをほかのパッケージから取り出した好みの物と入

れ替えてしまいました。それでも、どちらのパッケージのリボンも、数も品質も変わりありませんでした。違うのは色だけでした。しかし、彼女はその後何日も気持ちが落ち着きませんでした。そして最後には、自分がしたことの意味をはっきりと理解しました。それは、自分の利益のためにしたごまかし行為であり、うそをつくのと同じことだったのです。彼女は不正直なことを教えてしまったことについて、自分からへりくだって、娘に赦しを求めました。そして、どのようにしてその償いをしたらよいかを二人で話し合いました。

現在七十人名誉会員である J・リチャード・クラーク長老は、どのような形のものであれ、人を欺く行為はキリストの弟子には特にふさわしくないものであるということをおのづかのように教えています。

『モルモン書』の中で教えられているように、わたしたちは『神の民』と呼ばれるために『いつでも、どのようなことについても、どのような所においても、死に至るまでも神の証人になることを望』まなければなりません（モーサヤ18：8-9）。個々の教会員が模範によって示すこの証は、日常生活の中で絶えず厳しい目で観察されているのです。……

主はイスラエルの民に、そしてニーファイ人に、『偽証してはならない』と命じられました（出エジプト20：16；モーサヤ13：23参照）。もし福音の原則を信じていると告白するだけで、それを実践しなければ、偽りの証

言をすることにならないでしょうか。』 J・リチャード・クラーク、「汝らの光を高くかかげよ」『聖徒の道』1985年7月号、76)

うそのわなから逃れる

うその由々しきは、だまされる側が受ける傷や苦しみによってのみ判断されるべきものではありません。うそはそれを言う本人自身にも破壊的な力を及ぼします。自尊心を失わせ、真実と誤りを識別する力をも弱めてしまうのです。うそは何度もついているうちに、言い広めている当人もそれをほんとうのことだと信じ始めてしまう場合があります。『モルモン書』に登場する反キリストのコリホルがその例です（アルマ30：52-53参照）。

さらに、うそを言う人は盗みをする可能性もあります。真実の大切さを顧みない人は、人の財産権もあまり顧みないことなのでしょう。一つの罪が引き金となって、別の罪に至るのです。うその罪を悔い改めない人、「偽りを好みかつこれを行う者」（黙示22：15）は地獄で時を過ごし、最終的には永遠に星の栄えの王国に送られることとなります（黙示21：8；2ニーファイ9：34；教義と聖約42：21；63：17；76：102-106参照）。

ある会員は、たとえ自分自身はうそから距離を置いていると思っけていても、うそを許容してしまうと、それによって罪のわなの中に捕らえ込まれる危険性があるということを学びました。彼はある人からオートバイを買いましたが、そのとき売り手からこう言

われました。「600ドル払ってください。領収書には400ドルと書いておきます。そうすれば、お互いに税金をあまり払わないで済みますよ。」買い手はオートバイの代金は正直に申告するつもりでいました。そして、もし売り手にそのつもりがないとしても、自分はそれについてはどうすることもできないと正当化していました。

しかし彼は税金の申告の準備をする中で、正直な金額を記入しながら、問題は自分が最初に考えていたほど簡単でないことに気づきました。税務署の台帳上で買い手と売り手の名前が照合されたら一体どうなるのだろうか。売買について請求書で説明をするように求められたらどうなるのだろうか。彼はそのようなことになる可能性はほとんどないだろうと思いましたが、ほんとうに大切なのはそういう問題ではありませんでした。彼は本意ではないにしても、自分がうそに関与しているままであるのが耐えられませんでした。

彼は売り手のところへ行って、正しい金額を書いた請求書を出してくれるように頼みました。そして貴重な教訓を学んで家へ戻りました。少しでもうそを許容すれば、それを手助けしたと同じことになるのです。

十戒は、どのような社会にも必要な倫理的基盤を説いています。そのことだけでも、わたしたちが十戒に従う理由としては十分です。しかし、福音の光に照らして考えてみれば、わたしたちが十戒に従う最も大切な理由は、倫理的な事柄ではないのです。もっと重要なのは、それを命じられたのが、主

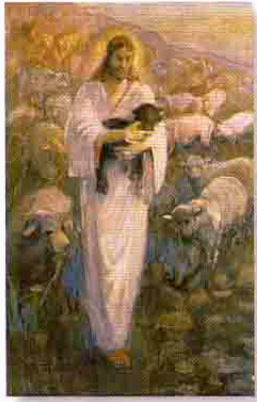


**この世的に重要な事柄について
真実のことを述べる義務があるのと
同じように、わたしたちは
救い主イエス・キリストについて、
いつも真実の証^{あかし}をする責任がある。**

なる救い主イエス・キリストであられるということです。それに従わなければ、わたしたちは、それなりの霊的な結果を、我が身に引き受けることになります。

偽証をしてはならないという戒めは、主が人を救うために説かれた教えの一つです。わたしたちは、天の御父とその王国に関して学んだことを通して、主はいかなる偽りも許容されないと理解しています。主はうそを言ったり、ほんとうのことを隠したり、自分の利益のために真実をゆがめたりするのをお認めにはなりません。そのような行いはどれも、神の子にふさわしいものではなく、また、わたしたちの真理の光であるイエス・キリストの犠牲にふさわしいものでもありません。わたしたちは、主が再びおいでになるときに、主なる救い主にふさわしい者の中に数えていただくためには、「いつでも、どのようなことについても、どのような所においても、死に至るまでも神の証人」にならなければならないのです（モーサヤ18：9）。

□



「わたしを愛するか……
わたしの羊を飼いなさい。」
(ヨハネ21：16)

100匹目の羊

ジェームズ・エドワード・ペダーセン

「失われた羊を助ける」ミネルバ・タイカート画。
絵/ジェリー・トンブソン

兄弟を見守らなければならないのに、
わたしたちは彼を失ってしまいました。

わたしが住んでいたカナダ、
ブリティッシュ・コロンビア
の小さな製粉所のあるポ
ートアルバーニは、その夜はいつになく
暖かい春の夕べでした。わたしは、ほ
んとうは人なつっこい性格なのに、学
校でも教会でも、初対面の人とはなか
なか打ち解けられないで困っていまし
た。そんなわたしですから、ミューチ
ャルに出席して、末日聖徒の友達と時
間を過ごすのはとても楽しみでした。

わたしたちはいつものように教会の
玄関ホールに何人かで集まって話し始
めたところでした。わたしがこのよう
な会話の中心になることはめったにあ
りません。外が見やすい場所に立って
いたわたしは、入り口から二人の姉妹
宣教師が一人の少年とともに入って来
るのが目に入りました。それは家の近
くで見たことのある少年でした。

宣教師の Eaton 姉妹は、同僚がそ
の少年と話している間に、わたしたち
のところに来て言いました。「ねえ、
みんな、あの子の家族とこれまでず
つと家庭で福音を教えてきたんだけど、
今日初めて教会に来てくれたのよ。だ
から、温かく迎えてあげてちょうだい
ね。」

わたしたちは気のない返事をする
と、彼とあいさつをしました。そして、
少年が話の輪の中に入れるように皆が少

しずつ場所を移動しました。彼は居心
地悪そうな様子で、じっと床を見詰め
ていました。その服装はわたしたちに
比べるとずっと粗末で、整っていま
せんでした。わたしたちはしばらく話を
続けていましたが、大人たちが入っ
て来たので、まだしばらく自分たちだけ
でいたがためにトイレにそっと入り
込みました。

その少年を除けば、わたしたちは皆、
話に夢中になっていたのだから、彼が一人
でそっと出て行ったのに気づきません
でした。トイレの中に場を移してから
も、彼がいないのに気がつきません
でした。

数分すると、開会のベルが鳴ったの
で、ふざけながらトイレから出て行く
と、ドアの外に Eaton 姉妹が待ち構
えていて、その目からは涙がとめど
なく流れていました。

「どうしてなの」と彼女は叫びまし
た。それは怒りと言うよりは、信じら
れないという叫びでした。「仲間に入
れて温かく迎えてあげることがそんな
に難しいことなの？」

「あの子、どこへ行っちゃったの」
と、わたしは愚かな質問をしました。

すると彼女は、「今さら遅いわよ」
と切り返してきました。「もう心配し
なくなっただけいいわ。あの子はもう二
度と教会へは来ないでしょうから。」



そう言い残して、彼女は同僚と一緒に少年を捜しに飛び出して行きました。わたしの家と彼の家は5キロくらい離れていました。

姉妹宣教師の叱責しっせきの言葉に胸を刺されたわたしたちは、無言で首を垂れたまま礼拝堂に入って行きました。みんなが元気を取り戻してから、わたしの良心はちくちくと痛み続けました。そして、自分たちのしたことを深く後悔しました。その日の夜、家に帰ってから、兄のローレンスにこの出来事について話しました。兄は、大学を休学して、家に帰って来ていました。もう

すぐ伝道に出ることになっていたからです。わたしは、霊的な事柄に関しての兄のアドバイスには、いつも一目置いていました。

わたしが一部始終を話した後で兄は、「どうしたらいいと自分では思っているんだい」と尋ねました。

「分からない」とわたしはぼつりと答えました。「どうしたらいいと思う？ イートン姉妹はもう手遅れだと言っていたけど。」

ローレンスはわたしがとても落ち込んでいるのに気がついていました。

「まだ分からないよ。姉妹たち、もう

アパートに帰っているところだから、ぼくが電話してみるよ」と言う兄の声にはいくばくかの希望が感じられました。

5分もたたないうちに兄はあの少年の住所を姉妹たちから聞き出してくれました。わたしたちは、すぐに家を飛び出しました。そう速くはありませんでしたが、粗末な彼の家に近づくにつれて、辺りは暗くなってきました。兄と一緒にほんとうに心強かったのを感じています。会ってもらえるかどうかも分からなかったのも、とても不安でした。

ペンキのはげた古ぼけた家の前に来

わたしたちは皆、話に夢中になっていたので、彼が一人でそっと出て行ったのに気づきませんでした。



ました。街灯の明かりで番地を調べていた兄が指をさして言いました。

「これだ。」深呼吸をしてから、兄と一緒に玄関へと向かいました。勇気がくじけないうちにノックしました。心臓がどきどきしました。間もなく母親らしい人が出て来ました。思っていたより老けていて、疲れているように見えました。

「こんばんは。息子さんいらっしゃいますか」とわたしは尋ねました。

彼女は、「息子に何のご用？」と疑わしげに答えました。

「今日、教会に来てくれたんだけど、ほくたち彼に冷たい態度を執ってしまって、……。それで謝って、もう一度教会に来てくれるようお願いに来たんです。」わたしはどもりながら言いました。

彼女は腕を組んでわたしたちをにらみつけました。自分の息子に冷たくしたわたしたちへの腹立たしさがそのまなざしから伝わってきました。

彼女はわたしから目をそらし、兄に向かってこう言いました。「わざわざ来てくれたのにすまないんだけど、息子は二度と教会へは行かないと思うわ。」

ドアを閉めようとする彼女に、兄はわたしたちがほんとうに悪かったと知っていることを何とか分かってもらおうとして言いました。「この子たちは、ほんとうに悪かったって思っているんです。わたしは、この子たちのことをよく知っています。二度と同じ間違いは繰り返さないとします。」

しかし、兄が言い終わらない前に、ドアは閉められてしまいました。その夜、わたしは再び落ち込みました。

「あの子、戻って来るかなあ。」わたしは心配して尋ねました。

「たぶん、戻って来ないだろうな。」兄は率直に答えました。

帰り道、二人はほとんど口をききませんでした。わたしは過ちを犯しました。それに気づいたとき、心から後悔し、その償いをしようと努めました。でも、うまくいきませんでした。「なぜなんだろう。」わたしは思いました。教えられたとおりのステップを踏んだのに、主はわたしの悔い改めを認めず、罪の重荷を軽くしてくださいませんでした。わたしは絶望的な気持ちになりました。

答えは、苦悶の後でわたしの心の内に見いだすことができました。わたしは十分なことをしていなかったのです。でも恐くて、もう一度彼に会いに行つて、赦しを請うことができず、結局あきらめてしまいました。

わたしにとってこれは完全な失敗でした。今でも恥ずかしく思っています。しかし、この経験から、ある意味で、大切なことを学んだ気がします。それを考えると今でも謙遜な気持ちになり、イエス・キリストの真の弟子になるためにどうあるべきかを思い起こさせてくれます。

救い主は、次のように説かれました。「わたしはよい羊飼である。よい羊飼は、羊のために命を捨てる。」

羊飼ではなく、羊が自分のものでもない雇人は、おおかみが来るのを見ると、羊をすてて逃げ去る。そしておおかみは羊を奪い、また追い散らす。

彼は雇人であつて、羊のことを心にかけていないからである。」(ヨハネ 10:11-13)

あのとき、わたしが羊を心にかけていたかどうかは別として、実際わたしは羊飼いではありませんでした。雇人のように逃げ去ってしまったのです。追い散らされた羊を見つけ出すまで捜しませんでした。一度失敗しただけで、あの少年をおおかみが奪うに任せてしまいました。真の羊飼いになるための努力を喜んで払おうとしなかったのです。

わたしは今でもあの少年の顔を心に浮かべ、彼はどうなっただろうかと思うことがあります。

自分のしたこととしなかったことに対して今でも責任を感じています。

教会のすべての会員同様、わたしも羊飼いにならなければと感じています。それがだれであろうとも、人に仕えることと、兄弟姉妹を受け入れることに喜びを見いださなければならぬのです。□

自分の息子に冷たくしたわたしたちへの腹立たしさがそのまなざしから伝わってきました。彼女は言いました。「わざわざ来てくれたのにすまないんだけど、息子は二度と教会へは行かないと思うわ。」



「わたしがあなたがたを癒すことができるように」

二 ニーファイ人は、救い主が十字架におかかりになった後に生じた暗闇の中から、次のように語りかける声を聞きました。「わたしがあなたがたを癒すことができるように、今あなたがたはわたしに立ち返り、自分の罪を悔い改め、心を改めようとしているか。」(3ニーファイ9:13)

神の赦しの乳香

罪はわたしたちを霊的に傷つけます。しかし、救い主は、ニーファイ人に与えられた同じ約束をわたしたちにも与えてくださっています。わたしたちが悔い改めるならば、救い主はわたしたちを癒してくださるのです。七十人のロバート・L・バックマン長老は、次のように説明しています。「イエスはゲツセマネと十字架上で、わたしたちすべての罪を御自分の身に引き受けてくださいました。わたしたちが生きられるように主は死なれたのです。罪の苦痛を経験したことのない人はいません。傷ついた魂を癒すために、神の赦しをぜひとも必要としない人はだれもいないのです。」(『キリスト・イエス』『聖徒の道』1992年1月号, 10)

昔、人々は乳香、すなわち芳香性のある樹脂あるいは香料を治療の薬剤として使用していました。主の贖いは癒しを必要とする魂に対して乳香の役割を果たします。主の権能によってバプテスマを受け、主の戒めを守るという聖約を交わす人々は、心から悔い改めることによって神の赦しの乳香を受けることができます。

「あなたは赦されるのです」

悔い改めは変わることで、すなわち、罪深い行いや会話、思いを捨てて、義になつたものを取り入れることを求めます。それは、良心の呵責と、しばしば償いを求めます。また時には、神

権指導者への告白を求めます。

残念なことに、自分の罪はとても重いので決して赦しは得られないと思っている人々がいます。スペンサー・W・キンボール大管長は、ある女性のことを語っています。彼女は重大な罪を告白しながら、こう言いました。「わたしは……決して赦されることはないのです」と。

それに対して、キンボール大管長は、「あなたは赦されるのです」と答えています。二人は、マタイによる福音書第12章31節から32節を含め、救い主が快く赦しを与えてくださったことを述べた聖文と一緒に読みました。主はそこで、「聖霊を汚す言葉」以外のあらゆる罪を赦すと言っておられます。

新たな希望をもって、彼女はキンボール大管長を見詰めました。「わたしはあなたの言葉を信じます。わたしは……赦しを頂けるようにします。」彼女はその後、「別人のように」なって再び訪ねて来ました。「目は輝き、足どりは軽やかで、……希望の塊」のようでした。彼女は悔い改め、主の癒しの赦しを感じたのです(『赦しの奇跡』350-352)。

日々の悔い改め

ほとんどの場合、悔い改めには劇的な変化は伴いません。むしろ、小さな変化です。現れるのは、神の方向にわたしたちを向かわせる日々の変化です。プリガム・ヤング大管長はこう述べています。「人々が自分の罪を心から悔い改め、罪の赦しのためにバプテスマを受け、その後日々義を行うこと以上に、自分の宗教に忠実であることを……証明する良い方法はありません。」(『歴代大管長の教え—プリガム・ヤング』81)

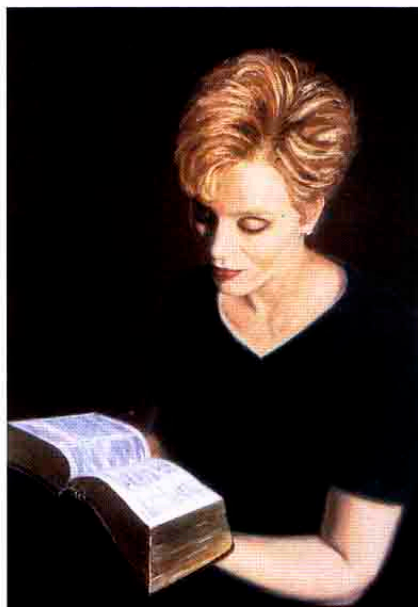
悔い改めは神の賜物です。その目的は、わたしたちに喜びをもたらすことです。アロンがラモーナイ王の父に救いの計画を教えた後、その王はこう尋ねました。「永遠の命を得るには……わたしは何をすればよいのか。……この大きな喜びを得るために、わたしは持ち物をすべて捨てよう。」

アロンは彼に、信仰を働かせ、悔い改めるように告げました。そこで王は、キリストのみもとに行くためにわたしたち全員が放棄しなければならない一つのことを捨てると申し出ました。「おお、神よ、……わたしはあなたを知〔るために〕自分の罪をすべて捨てます。」(アルマ22:15-18)

大きくても小さくても、罪はわたしたちの魂を傷つけます。しかし、わたしたちには憐れみ深い救い主がいらっしゃる。わたしたちが救い主のみもとに来て、悔い改め続けるとき、救い主は、わたしたちのささげ物を受け入れ、わたしたちを癒してくださいます。

●自分の罪を心から悔い改めるために、どのようなステップを踏まなければならないでしょうか。

●ほんとうの悔い改めは、どのようにして霊的な癒しに至るでしょうか。□





どんな結婚生活にも試練や問題は付き物です。しかし、夫婦で戒めを守り、主の御霊の導きを求めるとき、人生の嵐に立ち向かうことのできる強いきずなを築くことができます。本誌は、結婚生活をより良いものとするために福音はどのような役割を果たしてきたかというテーマで、読者の皆さんの意見を募集してきました。その中から選んで紹介しましょう。

神殿結婚を基とする。夫のジョンは高校の臨時教師をしていました。ある日、学校で結婚のことが話題になりました。生徒たちは、夫の年齢なら、1度は離婚していて、2度目の結婚でも

の聖壇で交わした聖約を思い起こすようにしています。さらに、わたしたちの結婚には「免責条項」のようなものがないことも話し合いました。わたしたちは、問題があれば、そこから逃げ出すようなことはせず、一緒に解決のために努力します。そして、決定を下すときには、主にも加わっていただくのです。

小さなことですが、神殿で交わした約束を忘れないようにするためにわたしたちが心がけていることがあります。それは、互いの欠点を探さないということです。そんなことは、わたしたちに代わって世間の大勢の人がしてくれます。そして、わたしたちはささいな

写真/ブライアン・K・ケリー



福音の原則を取り入れることによって、結婚生活がどのように強められてきたか、数組の夫婦に語ってもらいました。

実り豊かな結婚生活を送るために

当然だし、3度目の結婚を目指して準備中でもおかしくないと言うのです。今のままだと、子供たちが義理の兄弟たちと仲良く暮らす学習の機会を奪うことになるし、さらに、子供たちが将来離婚するときに何の準備もできていないことになるかと主張したのです。

ジョンは、結婚は今の時代でも永続させられるものだと言え、自分や妻の両親も祖父母も離婚した経験はないと説明しました。ジョンにとって彼らはすばらしい模範でしたし、自分たちも子供たちのために同じように模範を示すつもりだと言ったのです。

その後、わたしたちは自分たちを結びつけているものは何かについて話し合いました。最大のものは、わたしたちが神殿で結婚し、今でも定期的に神殿へ戻るよう努めていることです。少なくとも1年に1度は、結び固めの儀式に夫婦で参加して、わたしたちが神殿

ことは気にしないことにしています。台所を夜のうちに片付けなかった日があったとしても、今から100年後、だれがそのことを覚えているでしょうか。何よりもうれしいのは、わたしたちが二人とも、毎日お互いに顔を合わせるのを楽しみにしながら帰宅することです。夫婦としてのわたしたちの目標は、わたしたちの天の家へ戻ることです。わたしたちもいつもお互いのもとに戻るのを楽しみにしながら帰宅できるのです。——マリア・ベイツ、ジョン・ベイツ

聖文を研究する。ある春の日のことです。わたしが陽気な気分帰宅すると、妻が目涙をいっぱいためていてではありませんか。わたしはすぐに何が起きたのかと尋ねました。妻の説明によると、わたしの父が電話してきたと言うのです。教会活動が原因で、わたしは父から勘当されていました。

その父が、わたしは夫としては失格だと妻を説得しようとしたのです。わたしの心は怒りで燃えました。父はわたしの妻が涙を流すほど追い詰めたのです。

わたしは父に電話をして報復をしようと考えました。しかし、まず少し待って気持ちを静めてからと思直しました。次の2日間、わたしの怒りは収まらず、苦々しい思いが続きました。2日目の夜、妻とわたしは祈るためにひざまずきました。わたしの心は祈りをささげようという状態になっていなかったの、わたしは妻に祈ってくれないかと尋ねました。

すると妻はわたしの手を取り、こう言ったのです。「二人で祈る前に、あなたに読んでほしい聖句があるの。」妻は第三ニーフアイを開くと読み始めました。「あなたがたの敵を愛し、あなたがたをのろう者を祝福し、あなたがたを憎む者に善をなし、あなたがたを不当に扱ひ迫害する者のために祈りなさい。」(12:44)

わたしの心臓は高鳴り始めました。突然、まるで救い主が直接わたしに語りかけてくださっているように感じたのです。主の言葉がわたしの骨の髄まで貫いてきたからです。すると、わたしの心にわだかまっていた怒りも和らぎ、わたしは涙を流し始めました。

妻の方を見ると、妻はこう言いました。わたしはその言葉を決して忘れないうでしょう。「なぜわたしがその聖句と一緒に読んだか分かる？ あなたには、できるかぎり、いちばんすばらしい人になってほしいからよ。」

圧倒される思いでした。心優しい妻は聖文という扉を開け、福音の原則の光がわたしの心の中にまで輝きわたるようにしてくれました。そのために、わたしは父を赦すことができました。わたしは、それまでも増して妻に感謝の気持ちを抱くようになりました。わたしたち夫婦がそれぞれいちばんすばらしい人になろうと助け合っていくとき、福音は結婚生活に強固な土台を与えてくれるのです。——匿名

霊的な賜物を求める。イエス・キリストの福音は、わたしたちの結婚生活

にとって多くの点で大いなる指針となっています。わたしは、夫婦で直面している問題を解決するときには、祈りを通じて天の御父のもとへ行っただけです。あるとき、監督を訪ねよう導きを受け、監督は神権の権能を通して、わたしに、夫とはっきりと心を通わせることのできる賜物を授けてくださいました。以来、この祝福は、わたしたちの結婚生活にとって大きな価値を持つようになったのです。

また、わたしたちはそれぞれ、主が、伴侶の心だけでなく、わたしたち自身の心をも和らげてくださるよう祈りました。そして、必要に応じて、それぞれの生き方に過ちがあればそれも示してくださるようお願いしたのです。わたしたちの心に変化をもたらす、今以上に理解力を深めてくれるものは、主の御霊以外にはありません。——匿名

主を信頼する。わたしは、神殿の結び固めの部屋で、花嫁と隣り合って座ったときに、心の中で味わった気持ちを、今でも鮮明に覚えています。興奮と喜びと不安の入り交じった気持ちでした。わたしたちが聖壇にひざまずく前に、神殿長が、わたしたちがこれからしようとしていることの重要性について、勧告の言葉をくれました。神殿長は、結婚生活には数々の試練が訪れると言われたのです。しかし、当時のわたしは、その言葉の重要性にほとんどと言ってよいほど気づいていませんでした。

あれから何年か経過した今、我が家の10代の子供たちの育て方について悩む度に、あのときの神殿長の言葉が妻とわたしに新しい意味をもって迫ってきます。ある晩のことですが、わたしは、家の周囲を回ったり、電気を消したり、安楽いすに座ったりしながら、末の息子の帰宅を待っていました。テレビの上に置かれた時計の針は、明らかに、息子が門限を守ろうとしていないことを示しています。それから、また何分か経過しました。いすに座ってうたた寝をしながら待つなどということは、とてもできることではありませんでした。

時計の針が午前2時45分を過ぎようとしているときのことでした。わたしは別のことで心配に駆られました。息子はけがでもしているのではないだろうか。どこかの通りに倒れているのではないだろうか、と。やがて、息子の帰って来た音がしました。わたしはどんな言葉をかけたらいいのでしょうか。息子と面と向かった時間はほんの数分だったのですが、わたしには永遠の時間のように感じられました。その後、妻とわたしは、子供たちの人生における親の役割について、もっと深く考えるようになったのです。

あの夜に味わった恐れやそのほか我が家の10代の子供たちとの衝突の経験を通じて、わたしたちも成長し、子供たちとの接し方も変わってきました。そして、子供たちと接する態度も変えなければならぬことに気づきました。それまで、子供たちの行動がそのまま親の評価に跳ね返ってくるかもしれないと心配していたのですが、永遠の幸福という観点から子供たちに深い心からの関心を払うようになったのです。また、それまでは、親として、世間体を考えて家族の問題を隠そう隠そうとされていたのですが、あまり協力的でない家族や隣人の批判を乗り切るために、信仰を働かせるようになりました。導きを求めて主の方に心を向けるようになったのです。

こうした苦しい試練を通じて、わたしたちの結婚のきずなも強められました。心優しく愛に満ちたわたしたちの天の御父が、一步一步成長していくための道を備えてくださったことを、わたしたちは知っています。「光を受け、神のうちにいつもいる者は、さらに光を受ける。そして、その光はますます輝きを増してついには真昼となる。」(教義と聖約50:24)

主に信頼を置くことによって、わたしたちは、この成長の過程に従って、より高いレベルで福音を理解できるようになってきましたし、わたしたちの生活に救い主の教えを取り入れようという決意も強められてきたのです。——ロン・ハンセン

福音を基とする。恐らく、問題や試練の嵐から、そして、誤った決断により生ずる洪水のような悲劇から、あるいはまた「一体どうしてこんな相手と結婚してしまったんだろう」と思い悩む日々から、完全に無縁だという結婚はまずないだろうと思います。これらはどれを取っても結婚生活を破壊してしまう力を持っていますが、わたしたちにも分かったことがあります。それは、戒めを守り、結婚にかかわることを最優先することによって、わたしたちのよって立つ基盤が確立してきたということです。

人生にはたやすく手に入れられるものなどありません。わたしたちは、日々

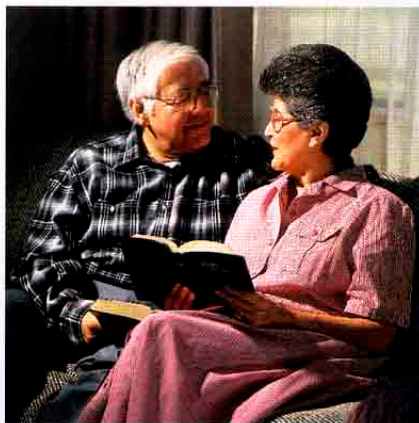
の実践リストの中に、「より良い結婚生活のための実践リスト」も加えてきました。ちょうど証が毎日新たにしなければ維持できないと同じように、わたしたちの結婚生活も、愛情あふれる言葉、速やかな赦し、そして思いやりに満ちた言葉遣いによって養われていく必要があります。わたしたちはまた、自分たちがいなければならないところにいるということ、しなければならぬことをしているということを大切にするようにしています。つまり、もし今日が日曜日なら、わたしたちは教会へ行きます。今が朝なら、聖文を読み、祈りをささげます。また、わたしたちの目標は、同じように考えることでは

なく、一緒に考えることだということを、常に思い起こすようにしています。夫もわたしも、お互いに随分違いがあることは認識していますので、互いの見方を理解するように二人で努めています。わたしたちの目標は、生涯を通じて、繰り返し繰り返し、何度でも、相手に恋をし直すことなのです。

わたしたちの関係の基を福音に置くことによって、わたしたちには錨が与えられ、「結婚という家」を救い主の言われた岩を土台として築くことができるのです。「雨が降り、洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつけたが、それは倒れなかった。岩を土台としていたからである。」(3ニーファイ 14:25)——シャンドラ・アイムラー・エーガー

ちょうど親として子供たちと一緒に過ごす機会を求めると、夫婦としては、子供たち抜きで二人で過ごす機会も求める必要があります。それは二人の関係に栄養を与え、二人の愛を健全でいきいきとしたものとするためです。

真の原則を研究する。結婚したころは、わたしたちは二人とも、自分たちは大した価値のない人間だと考えていました。そして二人とも、一人きりになることを望んでいました。ある晩、妻が末日聖徒イエス・キリスト教会から来たという二人の長老を家の中に招き入れました。外はひどい吹雪で、長



上—写真/マット・ライアー；
下—写真/ジェリー・ガーンズ



老たちを気の毒に思ったからです。最初わたしは気が進まなかったのですが、やがて、この教会は真実であるという証を得、最終的には二人で教会に加入することになりました。教会員となって、わたしたちはお互いに自分が神の子供であり、自分を進歩させることができることと学びました。また、わたしたちに弱点が与えられたのは謙遜さを学ぶためであり、その弱点を強さに変えることができるという教えも受け入れることができました（エテル12：27参照）。その教えにより、わたしたちは一緒に成長し続ける勇気を与えられ、正しい原則を研究する勇気を得ました。そのおかげでわたしたちは必要に応じ

て自分を変えることができたのです。

それから何年かたって、監督として働くように召されたとき、わたしは、妻と二人でそれまで勉強して集めてきた資料の一部を、多くの人々に紹介するようにしました。聖文から学んだ原則、教会の機関誌から集めた記事、自分で読んだ本、自分が人から聞いた話など、皆、福音の原則がいかに結婚生活を向上させるかについて触れたものばかりです。どの話も、それぞれ福音の真理を土台にしたものですから、非常に有益なものばかりでした。こうした実際的な助けや経験談、そして集められた話は、聖文的な考え方を加えることによっ

て、妻とわたしだけでなく、ほかの多くの人々にとっても、結婚生活を改善し、一緒に楽しく過ごせるようになるための大きな助けになりました。福音の中には、伴侶との関係を改善するための知恵がたくさん隠されているのです。——□バート・N・アレン

伴侶と結び合う。結婚して数か月後に、夫とわたしは両親のもとを離れて、国を半分も横断しなければならぬような引っ越しをすることになりました。その結果、わたしたちはささいなことでは両親の助けを求めることができなくなったのです。わたしたちは主の勧告のままに、伴侶と「結び合【い】



夫婦で戒めを守り、
主の御霊の導きを求めるとき、
人生の嵐に立ち向かうことのできる
強いきずなを
築くことができます。



「その他のものと結び合ってはならない」という教えをそのまま実践せざるを得なくなりました（教義と聖約42：22）。「結び合う」ということは、忠誠を尽くす、固守する、固執する、ということです。

その新婚当時は、軍隊の生活や、お互いのこと、そして単身赴任に慣れることで必死でした。やがて、子育てという奮闘も始まりました。しかし、わたしたちはそうした嵐に耐え、お互いにいっそう強く「結び合う」ようにしました。その結果、そうした数々の嵐にもかかわらず、二人の愛は強められたのです。

それ以外のことは、しよせんわたしたちの結婚生活を支え、昇栄という共通の目標に向かって行く助けになるものにすぎないのですから、わたしたちは、物質的なものや、職歴や、ボランティア活動と「結び合う」必要はまったくありません。もちろん、時にはそうしたものにも関心を持つ必要があることは承知しています。場合によっては、わたしたちは教会の召しにかかわる仕事でも後回しにすることもありました。それは、わたしたちの結婚生活にも関心を持たなければならないことがあったからです。

わたしたちの「結び合う」時間は、時には短いこともあります。そのような時間は、ほかの仕事と重なっていることが多くあります。例えば、指導者会の往復の車の中とか、子供抜きで二人でスーパーで食材の買い物をしているときといった場合です。子供たちと一緒に過ごす機会を求めることは大切ですが、それと同時に、夫婦として、子供たち抜きで二人で過ごす機会も求める必要があります。

ほかにも「結び合う」時間を計画します。毎週1回のデートは、強く勧められることです。お金をかけたデートをする必要はありません。どこかへ外出する必要すらないかもしれません。ただ、子供を抜きにした時間を過ごすことが大切です。その二人の時間こそ、二人の係に栄養を与え、二人の愛を健全でいきいきとしたものとする時間

なのです。

昇栄にあずかりたいというわたしたちの努力を妨げようと様々な試みが行われていますが、わたしたちは、結婚のきずなを弱めようとするものは神から来た教えではないのを知っています。わたしたちの結婚生活が長続きしているのは、互いに結び合い、神に仕えるようにという勧告に従おうと努力してきたからなのです。——ベッキー・E・ラドロー

祈る。チャドが新しく生まれて、妻の時間をだんだんと取るようになってきたとき、わたしは自分の中に憤りの気持ちが沸き上がるのを感じました。チャドの誕生とともに、新たな経済的責任や圧力が増し加わってきました。妻がわたしのことを理解していないのではと感じることもよくありました。そして、自分を理解してほしいという思いが強かったために、夫婦という枠を越えて、友情や感情的な支えを求めたいという気持ちが芽生えました。そんなとき、アイダホのボイシ神殿の結び固めの部屋で、愛らしい妻の手を取ったときに感じた気持ちを思い出したのです。その部屋では、この結婚がきわめて神聖なものであるという純粋な証を、主の御霊を通じて頂きました。わたしはその瞬間を決して忘れないでしょう。

かつてわたしは、実りある結婚生活が送れるよう夫婦として祈っているかどうか尋ねられたことがあります。今ではきちんと祈っています。一日の終わりには、息子とともにひざまずき、家族の祈りをささげます。福音は、結婚を助ける知恵に満ちています。わたしたちは、天の御父と強い関係を築くことによって、結婚生活に強いよりどころが得られたのです。——スコット・A・カールソン

感謝し、赦す。もう遅い時間でした。夫もわたしも疲れ果てていました。家の中はまったく片付いていません。幼い息子が赤ん坊にいたずらをしています。そのとき突然、夫とわたしは口げんかを始め、それはすぐに口論へと発展していきました。お互いに気持ちは

ずたずたです。やがて、夫とわたしはそれぞれ別の部屋へと引き上げて行きました。家中を沈黙が覆いました。

わたしは子供たちを寝かしつけましたが、まったく言葉は交わしませんでした。わたしたちの家庭は単なる建物となってしまったのです。空虚で、冷たく、声も聞こえない建物です。わたしは眠れませんでした。枕が涙でぬれ始めました。わたしの心は6年間を一緒に過ごしたすばらしい夫のことから離れませんでした。夫は、居間で一人さみしくいるはずで

す。わたしは導きを求めて祈り始めました。わたしは夫の方から先にこちらへ来て、謝ってほしいと考えました。でも、わたしたちの家庭に、以前にも増して愛の雰囲気に戻って来てほしいとも願いました。祈っているとき、わたしの心には、夫との結婚生活や神殿の聖約、そのほかこれまで受けたあらゆる祝福などの美しい思い出が次々とよみがえってきました。そのときです。一つの思いがわたしの心をとらえました。主はわたしに何をしよう望んでおられるのだろう、という思いです。涙がますますあふれてきました。そして、わたしは気づかぬうちに、夫のそばにひざまずき、眠っていた夫を優しく起こしていたのです。

夫はわたしを抱き締めると、「泣かないで」と言いました。わたしたちは二人でお互いに何度も何度も謝りました。そして、お互いにどれほど深く愛しているかを伝えました。こうしてすぐに、思いやりの精神が我が家を再び満たしたのです。

わたしは心の中で、天の御父に感謝しました。天の御父の導きがあったからこそ、わたしは心を開いて耳を傾け、謙遜になり、夫がわたしたちの生活にともにもたらしてくれている祝福を数え上げることができたのです。あの夜以来、夫とわたしは、疲れているときには以前に増して注意深い行動を取るよう努めています。そして、祝福を数え上げ、もっと忍耐強くなるよう努力を続けています。——ケリー・スミス □

違いを生み出すのはあなた

ポール・コックス

神の創造物を 守る

アン・ビリングス

写真/マーク・A・フィルブリック/ブリガム・ヤング大学

1987年のことです。西サモアのファレアルポに家族とともに住むポール・コックスは、突然ブルドーザーのうなり声に驚かされたその日の朝まで、村の近くの熱帯雨林が破壊されようとしていたことを知りませんでした。

村人たちは新しく学校を建てる資金を調達するために1万2,000ヘクタール以上の森林をやむを得ず売却したのです。そもそも学校を建てる計画はサモア政府の要求で始められたのですが、建設資金は村で一切を賄わなければなりません。「村人は森林を伐採することに賛成ではありませんでした」とコックス兄弟は説明しています。コックス兄弟はブリガム・ヤング大学から休職の扱いで、現在ハワイの国立熱帯植物園の理事とスウェーデンのウプサラで環境科学の教授を兼務しています。「事実、村人は10年間、伐採業者の立ち入りを待ってもらっていました。けれども学校の建築資金を調達する手だてはほかにありませんでした。子供たちを選ぶか、森林を選ぶかの選択を迫られていました。それは村人にとって非常に苦しい選択でした。」¹

このような状況に置かれると多くの人は自分の力ではどうしようもないと考えて投げ出してしまふものです。けれどもコックス兄弟はそのようなときに一つの決心をしました。「もし村人が森林を保護してくれるのであれば、学校の建築資金をわたしが調達することを

ポール・コックスはサモア、フェレアルポの住民のために、子供たちの学校を建てる資金を集め(下)、大切な熱帯雨林を(右ページ)伐採業者に売り渡すのを防いだ。







民族植物学者である
コックス兄弟は
植物と樹木のサンプルを
採取して薬効成分の
実験を行っている。

申し出ました。
……けれどもわた
しに資金を調達す
る当てがあるわけでは
ありませんでした。」

しかし、資金を見つける前に解決し
なければならない問題がありました。
それは村人に彼の申し出を受け入れても
らうことでした。村の首長たちの多くはコ
ックス兄弟に対して疑いの目を向けてい
ました。けれども大首長のフーイオウ・
サニーオウはコックス兄弟を信頼して、
コックス兄弟の支援を受け入れるようほ
かの首長たちを説得してくれました。

首長たちが同意したときにはすでに森の伐採が始めら
れていました。サニーオウ首長はマチューテ(訳注——
伐採用なた。中南米の先住民が用いる)を手にする、数
キロを一気に走って行って伐採者たちを追い払いました。

翌日、コックス兄弟は妻に訳を話して協力を取りつけ
ると、サモアの首都アピアへ飛び、学校を建設する金額
に見合う担保を差し出すことを証明する書類に署名しま
した。コックス兄弟は当時の様子をこのように語ってい
ます。「わたしは良い知らせと悪い知らせを持って妻の
もとに帰りました。良い知らせは1万2,000ヘクタールの
熱帯雨林を保存できることでした。悪い知らせは家と車
を売らなければならないことと、それでもまだ十分な資
金はそろわないということでした。

このようなときにこそ、結婚していてよかったとしみ
じみ感じるものです。妻のバーバラはわたしの手を握っ
て、こう言ってくれたんです。『ポール、わたしたちの

人生でこれほどすばらし
いことをする機会がこ
れからもあるかしら。
すばらしいことじゃな
い。やりましょうよ。』

コックス兄弟姉妹はユ
タの家を売る準備を始
めました。けれども間
もなく、家を売る理由
を耳にしたブリガム・
ヤング大学の学生たち、
コックス家の親戚、地域

の人々が資金を集めてくれました。こ
のため、コックス夫妻は実際には家と
車を売らなくてもよくなりました。

コックス兄弟は、50年間森林を保存
するための誓約書をファレアルポの
人々から取りつけました。誓約書には
次のような内容が盛り込まれています。
村の人々はこれまでどおり森を使うこ
とができます。つまり、食物や薬用植物
を採取したり、家屋やカヌーを造るための
資材を切り出したりすることは自由にでき
ます。けれども伐採業者や商用目的の
開発者はどのような形であれ森に手
をつけることはできないのです。

地球を守る

コックス兄弟はファレアルポの熱帯雨林を
救出したところで、手を休めてしまったわけでは
ありません。1997年に国際社会はファレアルポに
おけるコックス兄弟とサニーオウ首長の働きをたたえて
ゴールドマン環境賞を贈りました。環境保護運動のノー
ベル賞と呼ばれているものです。コックス兄弟は賞金の
一部を使って、現在の契約で定められている50年が経過
した後も永久にファレアルポの森林を保護するための基
金を設立しました。

コックス兄弟は1997年に海洋生態学基金も設立してい
ます。この組織は、「一時に一つの村を助けることによっ
て世界を救う」ことをモットーに活動しており、太平洋諸
島の村々に対して、学校、水道設備の設置、健康管理施
設、そのほか必要とされる事柄のために資金援助を行い、
村人たちが森林を手放さなくても済むようにしています。²

「わたしたちは小さな村で小さな事業を推進しています」
とコックス兄弟は述べています。「けれどもそれは現地の
人々にとって大きな意味のあることです。これらの事業

によって世界全体を変えることはできませんが、幾つかの村に住んでいる少数の人々の生活を改善するのに役立っています。わたしの努力はそれで十分に報われます。

わたしは、わたしがこの世に来たときよりも少しは世界を良くしてこの世を去ることを願っています。ファレアルポの森林は大した面積ではありませんが、大切なことは問題を解決するために正面から取り組むことだと思います。サモアは小さな国ですが、わたしは少なくともサモアに変化をもたらすことができました。わたしたち一人一人は自分の周囲を変えるために努力する必要があると思うのです。わたしたちは皆、自分なりの方法で変化をもたらすことができます。」

家族の伝統を守る

コックス兄弟は環境を守るために働いていますが、家族の伝統を守るためにも努力を重ねています。コックス兄弟は主と主の創造物を愛することを両親から教わりました。コックス兄弟の父親は国立公園の管理事務所長として働いていました。母親は野生動物と魚類を専門とする生物学者でした。二人とも活発な教会員でした。「わたしは幼いころから天の御父が創造された植物と動物のために祈ってきました」とコックス兄弟は話しています。

コックス兄弟は現在、彼が両親から学んだように、自分の家族にも福音を愛すること、地球を愛すること、あらゆる人を愛することを教えるために努力しています。

「我が家の子供たちは森林と動物のために祈っています。この星を守るために力を尽くすことは我が家に与えられた使命だと感じています。子供たちは皆、心から自然を愛し、地域間の文化的違いとその価値をよくわきまえています。子供たちは世界各地で様々な生活を送っている人々から多くのことを学んでいるのです。特に、世界各地の教会員と接することを喜びとしています。」

コックス姉妹と5人の子供たちは、コックス兄弟が働く場所として世界各地を転々とする度に一緒に移動してきました。サモア、オーストラリア、ニュージーランドそして現在のハワイとスウェーデンです。スウェーデンでは2年間の招聘を受けて、ウプサラの大学で教え、研究活動を行っています。彼は国王カール・グスタフ14世に対して環境科学に関する講義も行っています。

信仰を守る

ウプサラに招聘されて教鞭を執ることは学術的に大きな名誉であるとともに、個人としても大変名誉なことです。スウェーデンを訪問した初期のころ、コックス兄弟は福音の標準への忠実さを試され

る経験をしました。

「国王夫妻が主催なさった豪華な晩餐会に招かれて話を**する機会が与えられました**」とコックス兄弟は当時を思い出して話してくれました。彼の席は王妃の隣でした。出席者の一人が立ち上がって、王妃のために乾杯の音頭を取りました。「晩餐会の出席者は600人ほどでした。見ると、全員がワイングラスをかざしていました。どうしたらよいのか分かりませんでした。とっさに水の入ったグラスを手にして、それをかざしました。一瞬その場の空気が止まりました。人々はわたしの取った行動を見てあっけにと取られていました。

乾杯が終わって着席すると、王妃が体を傾けて、わたしの耳もとでこうささやかれました。『とても賢明な方法でしたよ。』それは8年前のことです。そして今こうしてわたしたちは再び招待を受けています。自分の信じていることに忠実であれば、人々から尊敬されるとわたしは考えています。」

コックス兄弟は科学知識の追求にほとんどの時間を費やしていますが、彼の生活において最優先させているのはもう一つの知識、すなわち霊的な知識の追求です。学問と福音は両立できると彼は信じています。「信仰と論理の間には深い淵が横たわっていると信じている人は大勢います。ある人たちは学問をしすぎると信仰を失うと言います。ほかの人々は祈りすぎると理性を失うと言います」³とコックス兄弟は話しています。けれども人は確固たる証と優れた理性を同時に持つことができるとコックス教授は信じています。彼は身をもってニーファイの次の言葉が真実であることを証明しています。「神の勧告に聞き従うならば、学識のあることはよいことであ

コックス兄弟は
長年にわたって力を尽くしてきた
多くのサモア人と
今なお親交を温めている。





る。」(2ニーフ
アイ9:29)

文化を保存する

コックス兄弟がサモアで成功した理由の多くは、学ぶことに対してこのバランスの取れた姿勢を貫いているところにあります。サモア・ペセガステークのステーキ会長であり、西サモアのLDSチャーチカレッジの学長であるナムーロウー・タバナ博士はこのように述べています。「サモアの現状を変えたいと考え、様子を見に来る人は大勢います。けれども、ポール・コックスは違います。彼はサモアへ来て人々と一緒に暮らしています。サモア人のように床の上で眠り、サモア人のように食べ、話しています。」

コックス兄弟がサモアの文化を学び始めたのは、1973年に宣教師として赴任したときからでした。けれども、それは必ずしも容易ではありませんでした。サモア・アピア神殿の第一副神殿長を務めるダニエル・ベサム兄弟は当時を思い出してこのように話しています。「コックス兄弟はお母さんから言われていたことがありました。それは、サモアの人たちを尊敬していることを示すために、目の前に出されたものはどんなものでも全部食べなければならない、という教えでした。コックス長老の最初の任地はサバイの村でした。彼の前に出されたのはパンノキの実でした。もちろん調理したものでした。コックス長老はパンノキの実を種ごと全部食べてしまいました。

伝統医療の研究を行うコックス兄弟は、サモアにおいて治療師という専門職が社会から姿を消し、彼らの知識が消滅する前に、彼らの受け継ぎを保存するための努力を続けている。

コックス長老はサモア人が実の中の一部分を食べずに捨てることを知りませんでした。彼らはそれをフーナと呼びます。けれども彼は全部食べてしまったのです。コックス長老が食べている間、村の子供たちは笑い転げていました。その日、コックス長老は伝道に行く先々で『フーナを食べたパラング(白人)』と呼ばれました。」けれども彼らの文化に一生懸命になじもうとしていた姿に人々は心を打たれました。「そのとき以来、コックス長老はこの有名な人になりました」とベサム兄弟は語っています。

伝道中、支部長を務めていた一人の首長は若きコックス長老に対して毎晩、意味があるとも思えないような音節の反復練習をさせました。そして最終的にコックス長老はそれが首長たちの使う非常に格式のある言語であることを知りました。⁴ 今日、丁寧な首長の言葉を使ってサモアの指導者たちと意志の疎通を図るコックス兄弟の能力は多くの門戸を開くうえで役立っています。

コックス兄弟がサモアの人々から尊敬を受けているのは彼がサモア人を尊敬しているからだと言っています。「コックス兄弟はわたしたちの文化と環境を守り、わたしたちが持っているものを正しく認識できるように人々を助けています。彼はわたしたちが豊かな文化と環境と言語を持っていると考えているのです。彼が重大な変化をもたらしているのはここに秘密があります。コックス兄弟は次のように言って、サモア人に彼らの持つ特性を理解させ、彼らが自分たちの中にある価値を見いだせるように助けています。『ごらんなさい。あなたがたは偉大な民族なのです。』このような姿勢だからこそ彼は成功しているのです。わたしはコックス兄弟を愛しています。』

フェレアルポの人々は彼らの森林の保護を見事に成功させたコックス兄弟をたたえるために、伝統的な儀式にのっとりサモアの大首長の称号を与えました。コックス兄弟はサモアで最高の荣誉とされている「ナファヌーア首長」の称号を与えられました。ナファヌーアはサモアの伝説に登場する、森林を愛し、戦いのときに村人を助け、苦境から救った女神です。コックス兄弟にふさわしい称号と言えるでしょう。

フェレアルポの人々は彼らの森林の保護を見事に成功させたコックス兄弟をたたえるために、伝統的な儀式にのっとりサモアの大首長の称号を与えました。コックス兄弟はサモアで最高の荣誉とされている「ナファヌーア首長」の称号を与えられました。ナファヌーアはサモアの伝説に登場する、森林を愛し、戦いのときに村人を助け、苦境から救った女神です。コックス兄弟にふさわしい称号と言えるでしょう。

病気治療の知識を保存する

コックス兄弟は文化的な理解を基礎にして民族植物学の研究を行ってきました。1984年に母親を癌で亡くした

とき、病気を治療するために使われている植物について研究することを決意しました。同年の年末にコックス兄弟は西サモアへ住居を移して、サモア人の治療師が使う伝統的な医薬品について研究を始めました。コックス兄弟は、あらゆる病気に植物を使う治療師の話聞くことによって、医療効果のある植物の見識を広めることができると考えました。治療師という専門職が社会から姿を消す前に、また熱帯雨林が絶滅する前に彼らが持っている知識を保存しておきたいと考えました。

コックス兄弟が確認した植物の種の多くは病気に対する抵抗力を持つことが証明されています。その一つにウイルス性の病気の治療に何世紀もの間サモアの治療師が使ってきた樹皮があります。この樹皮から、研究者はプロストレイチンを抽出しました。国立癌研究所はプロストレイチンには健康な細胞におけるHIVウイルスの成長を遅らせる作用があることを発見しています。プロストレイチンを抽出できる木はサモアの一部の地域にしか生育しません。その地域は危うく伐採されてしまうところでした。

プロストレイチンが商品化されたら、サモアの人々は利益の半分を受け取ることになっています。先住民の権利と利益を保護するこのような取り決めは、この種の契約としては世界で最初のものです。

創造物を尊重する精神を守る

コックス兄弟の関心は新しい薬品を見つけることよりも森林を保存することに向けられています。地球を大切にすることは「天地とそこにある万物を創造された…神」に対して敬意を表すことであるとコックス兄弟は信じています（モルモン9：11）。

彼はこのように説明しています。「わたしたちは美しい絵画、最高傑作の中に住んでいる、とわたしは信じています。もし作者に対して愛情を感じているのであれば、作品を切り刻んだりしないはずです。」

文化の違いを超えて多くの人々は世界が神聖なものであると信じている、とコックス兄弟は言います。「彼らは森の中を散策して、木々の頂を通して漏れてくる光を見るときに、神の御顔を拝しているのです。」あらゆる文化にこの敬虔な思いを回復することによって、ほかのどのような方法よりも確実に世界を守ることができる、と彼は信じています。

「わたしたちが神の創造物であるこの惑星に敬意を

表し、天の御父の創造物に対して謙遜で柔和な態度をもって接するならば、一人一人が何かの方法で周囲を変えることができます。それは水が出しっぱなしの蛇口を閉めるとか、自分の家や敷地を掃除して心地よく美しい状態にするとか、資源を浪費することのないようにエネルギーの使い方に注意するとか、簡単なことを実行することです。家畜に思いやりと憐れみの気持ちをもって接するとか、ごみを拾って地域をきれいにするということでもあります。この問題はわたしたちが何をやるかではなく、わたしたちが賛美する気持ちをもって何かを行うかどうかということにあると思います。」□

注

1. この記事で引用されている談話は、ブリガム・ヤング大学広報部のジュリー・ウォーカーがポール・コックスに対して行ったインタビューから抜粋した。許可を得て掲載。
2. シャロン・M・ハドックによる引用，“Saving rain forests is professor's forte” *Deseret News* 「熱帯雨林の救済を得意とする大学教授」『デゼレトニュース』1997年4月14日付
3. グレグ・ヒルによる引用 “International acclaim doesn't skew priorities in BYU scientist's life” *Church News* 「国際的称賛によってもブリガム・ヤング大学の科学者の生活は変化しない」『チャーチニュース』1995年5月20日付，6
4. シェリダン・R・シェフィールドの談話より “Botanist's studies motivated by desire to help sick, afflicted” 「植物学研究の動機は、病人や苦しんでいる人を助けたいという望みだった」『チャーチニュース』1992年9月5日，7



コックス兄弟は
フーイオウ・サニーオウ大首長
(右)の助けによって、
熱帯雨林を救う運動に対して
フェアレポの首長たちの
信頼を勝ち得ることができた。





日々の生活の中で遭遇する否定的な影響力に 立ち向かうには どうしたらよいでしょうか。

問題が山積する今の世の中で、人生に対してとかく否定的な考え方を抱きがちです。自分を取り巻く否定的な影響力に立ち向かっていくにはどうしたらよいでしょうか。

本誌の答えは、問題解決の一助として与えられたものであり、教会の教義を公式に宣言するものではありません。

回 答

世の中に起きているひどい事柄について話を聞いているだけで、気持ちが暗くなりそうです。わたしたちは学校、職場、また時には家庭でも、こうした否定的な影響力に取り囲まれているように思えます。しかし、このような力に負ける必要はありません。第二次世界大戦中、あるポピュラーソングが人々にこう勧めていました。「善を見詰め、悪を取り去ろう。」わたしたちは福音を実践し、主から望まれているすべての事柄を実行することにより、それを目指して励むことができます。

もちろん、福音を実践すれば、必ずわたしたちの生活の中から問題がなくなるという保証があるわけではありません。わたしたちは前世にいるときに、そのことを受け入れました。天上の会議において、地上に来て、試練を受けることに同意したのです。わたしたちは「すべての物事には反対のもの」があることを理解しています（2ニーファイ2：11）。しかしわたしたちは、天の御父がその「反対のもの」を克服するための道を備えてくださっていることも理解しています。その道とは神の独り子イエス・キリストです（ヨハネ14：6参照）。

事実、救い主はわたしたちがこの世の否定的な影響力を克服できるように、

幾つかの道を備えておられます。第1に、主はわたしたちの罪を贖い、悔い改める人々が苦しみを受けることのないようにしてくださいました（教義と聖約19：16参照）。主はわたしたちの罪を贖い、そして今はこう命じておられます。「わたしに学び、わたしの言葉を聴きなさい。わたしの御霊の柔らかな道を歩みなさい。そうすれば、あなたはわたしによって平安を得るであろう。」（教義と聖約19：23）

第2に、イエスは地上で務めを果たしていたときに、わたしたちのために一つの模範を示されました。「独り子は数々の誘惑に遭われたが、それらを少しも心に留められなかった。」（教義と聖約20：22）

第3に、救い主は悲しみ、苦しみ、病気、誘惑などを自ら経験されたために、わたしたちがそれらの試練に立ち向かっていくのを助けることができになります。アルマは次のような預言の言葉を述べています。「そして神の御子は、あらゆる苦痛と苦難と試練を受けられる。……

……肉において御自分の心が憐れみで満たされるように、また御自分の民を彼らの弱さに応じてどのように救うかを肉において知ることができるように、彼らの弱さを御自分に受けられる。」（アルマ7：11—12）

わたしたちは、主が罪の贖いをしてくださっただけでなく、人類の「苦痛と苦難」をも受けられたということを忘れてしまうことがあります。主は御自身の体験を通して、わたしたちがいかなる状況にあるかにかかわりなく、どのようにして祝福を与えるべきかを御存じです。

救い主はすべての人を祝福し、助ける力を持っておられることを信じている人々は、「一切の善いものを固く守る」ために必要な信仰も持っています（モロナイ7：28）。確かに救い主御自身が「一切の善いもの」の生ける象徴であり、それがゆえにわたしたちは何にも増して主に強くつかなければなりません。そのためには「聞くだけの者」ではなく「御言を行う人」にならなければなりません（ヤコブの手紙1：22）。

ある読者は日々の生活の中で主の御言葉への理解を深め、さらに実践に努めるなら、それにつれて恐れや疑いが消えていくと述べています。ヒラマンは自分の息子たちに次のように勧告しています。「わが子らよ、覚えておきなさい。あなたたちは、神の御子でありキリストである贖い主の岩の上に基を築かなければならないことを覚えておきなさい。……まことに悪魔の電と大風があなたたちを打つときにも、それが不幸と無窮の苦悩の淵にあなたたちを引きずり落とすことはない。」（ヒラマン5：12）

悪魔の大風と戦う人々に、主は次のような確かな約束をしておられます。「わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである。」（マタイ28：20）

読者からの提案

主に対するわたしの信仰は、主の助けを求める度に強められてきました。人生に否定的な影響力が付いてまわることは承知していますが、反対のものがなくしては成長ありません。でも主は、わたしが耐えられないような誘惑を受けるままにはおかせません。主はわたしのことを御存じだからです。この確信は救い主への信仰を築き、福音への証を強めてくれます。



トンガ・ヌクアロファ南
ステーキ、
ハーティホ第2ワード、
ファオウィニ・ロム

わたしたちはいつも、ほかの人々の行動、テレビや映画、新聞やその他の出版物などを通して、否定的な影響力にさらされています。主の再臨が近づけば近づくほど、わたしたち末日聖徒に対する誘惑は強くなっていきます。しかし、聖霊の助けがあれば、わたしたちは誘惑を退け、福音の原則を實踐していくことができます。教会の指導者から与えられた勧告を忘れないようにしなければなりません。教会の指導者は、この世の偽りの教えを受け入れないよう、常にわたしたちに警告しています。彼らの勧告に従うことにより、わたしたちは、自分たちを取り囲む様々な困難に立ち向かい、それを克服していくことができます。



イタリア・パレルモ地方部、
リカータ支部、
マリア・モンツァー

わたしは、毎日善い行いをし、救い主の生涯について深く考えることにより、悪に打ち勝とうと努力しています。主はわたしに、御自身のもとへ帰るように望んでおられます。それは救いの計画の最大の祝福です。わたしは救い主を愛しているので、誘惑に負けたり、悪を行って主を悲しませたりするようなことはとてもできません。



トンガ・ヌクアロファ・
ムアステーキ、
ムア第2ワード、
ジョン・T・タリアオーリ

わたしは、聖文の教えと主の預言者たちから与えられる勧告が、この末日に生きるわたしたちの必要に合ったものであることを知っています。聖文の教えやそれらの勧告に目を通し、理解し、日々の生活の中で実践するなら、主への信仰をはぐくみ、わたしたちを取り囲む否定的な影響力に立ち向かう力を得ることができます。

フィリピン・アーダニタステーキ、
ピナロナンワード、
オーマル・T・モイセス

わたしは大学生で、周りには教会員でない友達がたくさんいます。わたしの基本的な考えや価値観はいつも試されています。でも、福音の標準を實踐することによって、誘惑に耐える力を得ることができます。そうすることで、わたしは自分の生活の中にあふれる喜びを見だし、人々の関心を引き、彼

らに証を分かち合う機会を得ています。



台湾・タイワン
台中第3ワード、
リー・ユン駿

苦しい状況に追い込まれたり、人々に傷つけられたり、ひどい扱いをされたりしても、意外に思っただけではありません。救い主はそのような問題のすべてを経験し、克服されたのです。そしてその結果として、救い主はわたしたちをどのように助けるべきかを理解しておられるのです。もしわたしたちが主に対して心を開くなら、主はそのすばらしい愛をもってわたしたちを満たしてくださることでしょう。主はわたしたちを慰め、力を与えてくださるでしょう。

わたしたちは「人が存在するのは喜びを得るためである」ということと(2ニーファイ2:25)、人はすべて主の前に大いなる価値を持つ存在であることを心に留めておく必要があります。



イタリア・
ベニスステーキ、
トレビゾ支部、
エリサベタ・マランゴン

この世の否定的な影響力に負けないようにするために、わたしは一日の初めに聖文を読みます。そうすると、御霊の正しい影響力に対して心が開かれます。祈りを伴う断食も心を開き、永

遠の事柄に対する理解を深めさせてくれます。



ブラジル・
サンタマリアステーク、
イタインペワード、
カロリナ・A・ナッチガル

わたしは宣教師ですが、これと同じような疑問を持っている人々と会うことがよくあります。自分が何者であるか、すなわち愛にあふれた神の子供であることを理解すると、彼らの信仰は強められます。また、人生には目的があり、主がわたしたちを導きたいと望んでおられることを理解すると、この世では安らぎを、また来るべき世では永遠の進歩を与えるという天の御父の約束を受けるにふさわしい者になりたいという希望を持つようになります。



アルゼンチン・
ロサリオ伝道部、
ミゲル・バルセロ・
ベニテス長老

聖文、また愛と靈感に満ちた教会の指導者、そして自分の罪を贖ってくださった救い主の贖罪に対する証は、悲観的な気持ちを引き起こす様々な影響力の克服に必要な希望、力、信仰を与えてくれます。わたしは専任宣教師として、つらいことや様々な反対に遭っても、前向きな態度を養っていくことを求められています。主への信仰に、行いが加われば、奇跡を起こすことも

できます。



ブラジル・
ベルオリゾント東伝道部、
アルデーニャ・エミリアーノ・
メンデス姉妹

わたしたちがぶつかっていく様々な問題は、聖文を学び、また指導者の勧告に従い、目的をもった断食をし、祈りを通して主に求め、聖霊にふさわしい生活することによって、解決できると思います。

わたしたちは謙遜で、思いやりの心を持ち、従順な教会員にならなければなりません。また、主の御業をなすという意志だけにとどまらず、特にもっと強い望みを持つ必要があります。



ブラジル・
ブラジリアステーク、
パラノア支部、
ジョアン・パティスタ・
デ・オリベイラ

生活の中で否定的な影響力に遭遇したときは、主が自分のために命をささげてくださったことを思い起こします。主の受けられた試練に比べれば、自分の問題など取るに足りないものだと思います。これからも試練に耐えて生きていかなければならないとしても、それで主のみもとへ戻れるとしたら、行う価値のあることだと思います。

ペルー・リマ・マグダレーナステーク、
エリオワード、
クララ・ロルデス・ディアス・マギーニャ

わたしは、この世の否定的な影響力に立ち向かうための最も良い方法は、常に主に助けを求め、教会の活動、セミナー、インスティテュートなどに活発に参加し、聖文を読むことだと思います。そうしていく中で、わたしたちは主への信仰を養っていきます。そして、信仰を養っていくならば、すべての否定的な影響力に立ち向かっておられる御方である救い主への望みという大きな賜物を頂くことができるのです。



フィリピン・
カタルマン地方部、
アレン第1支部、
ネルマー・A・アングレス

「質疑応答」のページがさらに有意義なものとなるよう、下記の質問に対する皆さんの意見をお寄せください。締め切りは1999年1月1日、あて先は次のとおりです。

QUESTIONS AND ANSWERS,
International Magazines, Floor 25, 50
East North Temple Street, Salt Lake
City, UT 84150-3223, USA.

氏名、住所、年齢、所属ステーク／地方部、ワード／支部名を明記のうえ、日本語で意見をお寄せください。手書き、ワープロ、いずれでもけっこうです。できれば写真を同封してください。ただし返却は致しかねますので、あらかじめご了承ください。内容は個人的なもの、あるいは内密性の高いものについては、匿名扱いにすることもできます。わたしたちは届いた意見の中から代表的なものを選んで掲載しますので、すべての意見が掲載されるとは限りません。

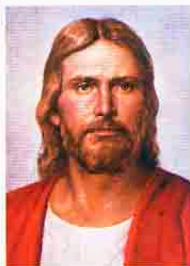
質問——悔い改めのステップは理解しているつもりです。でも、自分の罪が赦されたことはどうしたら分かるのでしょうか。□



主を 第一に置く

リンダ・バン・オーデン

写真/マシュー・バン・オーデン。マンチェスター・ユナイテッド・サッカークラブの厚意により掲載
【主イエス・キリスト】デル・パーソン画



5万5,500人の絶叫したファンが、一同に自分の名前を連呼している様子を想像してみてください。ディフェンダーをかわし、ゴールにボールを蹴り入れる瞬間、アドレナリンは上昇します。「ゴール！」観衆が声を一つにして叫びます。あなたは観衆の方を振り向き、手を挙げて勝利のポーズを取るのです。

イギリス・リバプールステーク、レイワードに属する18歳のデビッド・ブラウンには、この光景を想像する必要はありません。実際に経験しているからです。

デビッドは17歳のとき、イギリスで最も才能あふれる若手サッカー選手に選ばれ、有名になりました。そして現在、イギリスでいちばんのユースチーム、マンチェスター・ユナイテッドのセンターフォワードとして活躍しています。デビッドは、同チームの二軍選手ながら、世界的に有名なサッカーチームでプレーをする興奮を味わっているのです。

一軍とともに日々トレーニングをする興奮は、デビッドの顔にも現れています。そして、多くの人にとって夢だったことが実現したんです、と語っています。「コンディションをベストに保つために、トレーニングはとても厳しいものです。大学に通いながら、チームとは週に4日トレーニングをします。くたくたになりますが、トレーニングは大好きです。」

デビッドはほほえみながら次のように話してくれます。「トレーニングの一環として、一軍の選手たちの靴の手入れがあります。グラウンドの整備もしますし、ボールをちょうどよい堅さにふくらましたりもします。新人が引き受ける仕事としては、伝統的なものです。しかし特権でもあるのです。」サッカ

一のスター選手たちの靴を手入れすることで、デビッドはこれからたどるであろう足跡について思い起こすのです。デビッドは自分の才能や努力によって、デビッド・ベッカムやライアン・グリッグスのような成功を収めることができるようにと願っています。

同年代の中では最も優秀なセンターフォワードの一人であるデビッドには、どこからでも得点を入れることができるという評判があります。驚いたことに、デビッドは小さいころあまりサッカーに興味を持っていませんでした。デビッドはこのように回想しています。「兄たちがサッカーをするとき人数が足りなくて、無理やりやらされたんです。」

しかし11歳になるころには、デビッドのスポーツへの才能は人々の目を引くようになっていました。学校で最優秀選手に選ばれたデビッドは、郷里ボルトンの選抜チームに抜擢されました。そのチームの最優秀選手の一人となったデビッドは、オルダム・アスレチックからスカウトされました。そしてオルダムとの4年契約が終わるのを待っていたマンチェスター・ユナイテッドが、デビッドを迎え入れたのです。

チームの中で唯一の末日聖徒であるデビッドは、高い標準を掲げる機会に恵まれています。「ほかの選手たちは、わたしの信仰に敬意を表してくれています。彼らと飲みに行かなくても、そのことで、からかわれたりはしません。彼らはわたしが飲まないことを知っていて、その決心を尊重してくれます。」

証を強く保つために、デビッドは活発に日曜日の集会と週日の活動に参加しています。デビッドは次のように語ります。「最近ステーキ宣教師として召されました。ホームティーチャーとしても働いています。」デビッドがステーキ宣教師として働くことで、マンチェスター地域の人々にきっと良い影響を及ぼせるでしょう。多くの人がマンチェスター・ユナイテッドのファンであり、デビッドに見覚えがあるかもしれないからです。

デビッドはこう言っています。「わたしの生活の中で、教会は重要な役割を果たしています。セミナーへの出席も、証を確立するうえで役立ちました。」毎朝6時に起床し、デビッドは4年間早朝セミナーに出席しました。13年間セミナーを教えたデビッドの母親は、兄たちを教えるときにデビッドも一緒に教えてきました。

デビッドはそのことについてこう話してくれました。「兄たちは良い模範でした。そしてわたしを高めてくれました。」ブラウン家の男の子たちは、兄弟同士ならだれでもするように、レスリングをしたり、からかい合ったりします。しかしチームワークは抜群です。お互いを思いやり、お互いの成功を望んでいます。デビッドの3

人の兄たちは、それぞれ伝道に出ました。ブライスはアメリカ合衆国のオクラホマで、ゲイリーはイギリスのロンドンで、そしてポールはイギリスのリーズで伝道しました。兄たちがセミナーを卒業して、伝道に出る度に、セミナーのクラスは小さくなっていきました。デビッドにとってのセミナー最終学年では、母親の教えるセミナークラスの生徒はデビッド一人になってしまいました。しかしデビッドはそんなことを気にしませんでした。聖文を勉強することで、証を強め続けていきました。

デビッドの教師および母親として、ブラウン姉妹はデビッドの証が培われていくのを目の当たりにしてきました。ブラウン姉妹は次のように話しています。「デビッドはほかの人が何と言おうと、福音に添って生きる勇氣を持っています。」

デビッドには、逆境のさなかでも強さを保てるようにしてくれる、好きな聖句があります。それは教義と聖約第82章10節です。「あなたがたがわたしの言うことを行うとき、主なるわたしはそれに対して義務を負う。しかし、あなたがたがわたしの言うことを行わないとき、あなたがたは何の約束も受けない。」デビッドの言葉です。「この原則を生活に応用すれば、すべてほかのことはうまくいくことでしょ。」

デビッドが主を第一に置いたためにしたことは、日曜日の試合に関するものでした。サッカーのトーナメントは日曜日に行われることがしばしばです。しかし、デビッドは11歳のときに、安息日にはサッカーをしないと決心しました。コーチとマネージャーはその決心を尊重してくれました。そして彼がその決心に従えるように配慮してくれました。デビッドは、従順であるために、いかに主から祝福されているか次のように言っています。「イギリスでは、悪天候のために試合が延期になることがよくあります。あるシーズンの終わりに振り返ってみると、当初日曜日に予定されていた試合の全部が、結局週日に行われていたことがあります。わたしは6試合全部に出場でき、32点も入れることができました。」結果として、デビッドはそのシーズンの得点王となり、「日曜日にはサッカーをしない青年」として評判になりました。

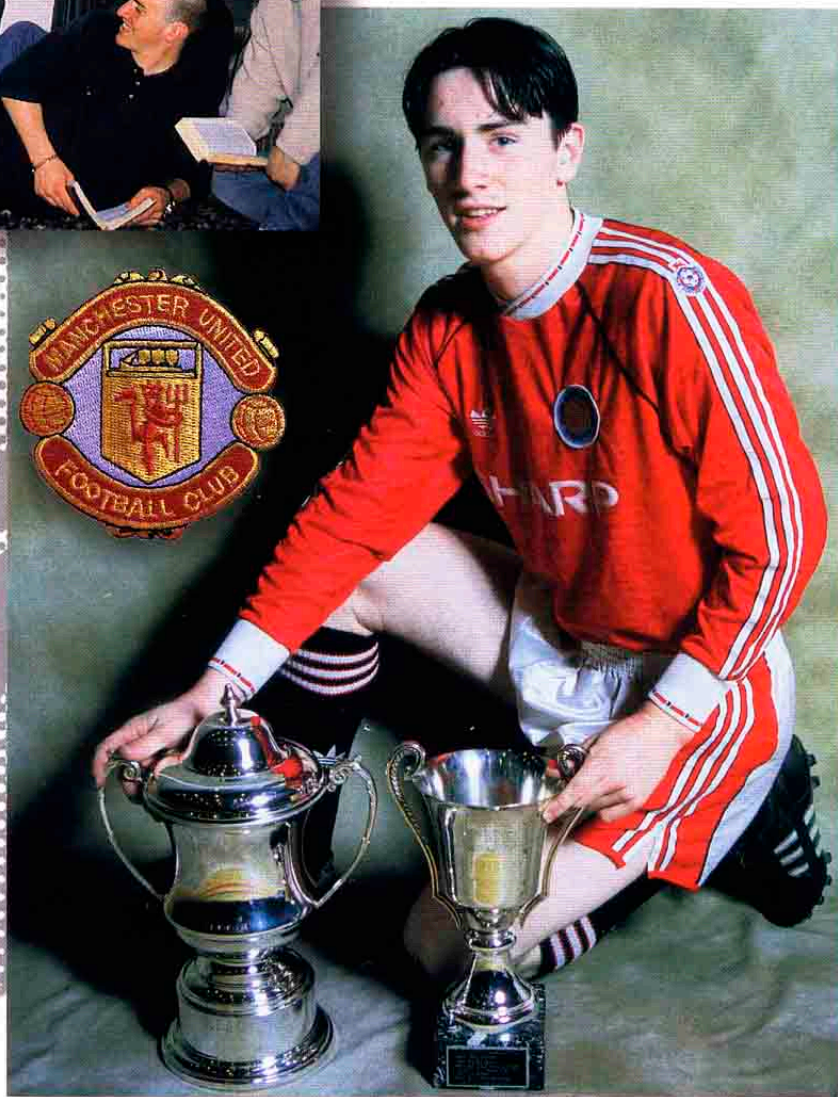
デビッドはたまの自由時間を、両親や兄弟たちと過ごして楽しんでいます。「親友は兄や弟たちです。」そう語るデビッドと兄弟たちは、年齢的にも近いのです。25歳のブライス、22歳のゲイリー、21歳のポール、18歳のデビッド、15歳のスティーブンがブラウン家の兄弟たちです。ワードには、15歳から20歳までの神権者はほかにいません。それでお互いが福音に忠実であるように励ま合っています。

デビッドの成功の鍵は勤勉^{かぎ}です。デビッドの母親は、デビッドが自主的な子供であったことを思い出して、次のように語っています。「デビッドはいつでも勤勉でした。宿題であろうと、セミナーの課題であろうと、やりなさいと言われる前に自分から取りかかっていた。デビッドは我が家でいつも『自分でやるよ』と言っていたので、そのことでみんなにからかわれていました。デビッドには、何事に対しても一生懸命に励む力があるのです。」

いかなる分野であっても成功を収めようと努力している人に対して、デビッドは次のようなアドバイスをして

います。「やりたいことがあればそれが何であっても、懸命に努力してください。そしていつでもまず主を第一に置いてください。」サッカーのスターになるという決意によって、デビッドは成功へと導かれてきました。しかし与えられたスポーツの才能を伸ばすことによるのみ、成功がもたらされるわけではありません。兄弟たち、両親、そしてチームのメンバーたちの模範に従うことで、デビッドは優れた特質、つまり懸命に努力を重ね、主を第一に置き、人生とサッカーのゴールに目を向け続けることを、今後も伸ばしていくことでしょう。□

**デビッドは家族と福音を学ぶときに、
大きな霊的支えを得ていると感じている。
下——これまでに受け取った
トロフィーの一部。**



あな

十二使徒定員会会員
ジョセフ・B・ワースリン

皆さんは、自らの選びでだれかに従うとき、その人と同じ目的地を選ぶこととなります。選択をする際に考えられる3つの指針を紹介しましょう。

イ エス・キリストの回復された福音は、愛に満ちた天の御父がわたしたちをこの地上に送られ、いろいろな経験から善と悪の両方を学べるようにくださった、ということを力強く教えています。天の御父はわたしたちに選択の自由という賜物^{たまもの}を与えてくださいました。選ぶ力、自らの運命を切り開く力はほんとうに大切なものでした。だからこそ、その力を擁護するための戦いが天上で繰り広げられたのです。皆さんは、救い主に従うことを選びました。その選択のゆえに、天の御父のみもとを追い出されることなく、この試しの世に送られてきたのです。



た の 選 び

単純かつ聞き慣れた指針とありますが、皆さんの先祖に役立っただけでなく、皆さんと皆さんの子孫に役立つ指針を3つ提案したいとします。

- キリストに従う
- 預言者に従う
- 御霊に従う

キリストに従う

どこでも、いつの時代でも、まただれでも、天の御父の子供はすべて、救い主の愛に満ちた招きを受けています。主の「われに來よ」(『賛美歌』66番)という招きは万人に及ぶものです。

今日の世界において、「敵対する者の放つすべての火の矢」から身を守る唯一の防御法は、自らの選**び**により「神の武具で身を固める」ことです(教義と聖約3:8;エペソ6:11)。

サタンは、熟練したペテン師であり、あらゆる偽りの父です。主と主の贖いの犠牲に対する信仰を行使し、あらゆる戒めを守ることによってのみ、皆さんは自分の力へと注意深く導こうとするサタンの執拗で狡猾な影響から守られるのです。

福音は、あちらこちらで少しずつつまみ食いするようなパイキング料理と同じように扱うことはできません。きちんと座ってすべての食物を残らず食べる、すなわち主の愛のこもった戒めを完全なまま生活に取り入れなければならないのです。

皆さんはこれまで福音を学んできました。ですから何をなすべきかは知っているはずで**す**。すなわち祈り、聖文を学び、断食をし、什分の一とその他の献金を納め、集會に出席し、ほかの

人に奉仕し、教会の指導者を支持し、聖約を交わすだけでなく守り、福音を分かち合い、正直、純潔、慈善、徳高くあることです。

預言者に従う

わたしたちが神の言葉を受けるのに、救い主は「わたし自身の声によろうと、わたしの僕たちの声によろうと、それは同じ」であると宣言されました(教義と聖約1:38)。わたしたちはキリストに従うならば、この地上における主の代弁者、すなわち預言者に従わなければなりません。

ヨーロッパ地域の地域会長として働いていたときのことで**す**。わたしは姉妹とともにフィンランドからスウェーデン、デンマーク、そしてノルウェーと訪問旅行をして回り、各地で集會や大会を開き、教会員や宣教師と交わる機会がありました。わたしたちの旅も終わりに近づいたころ、ノルウェーのアルタという小さな町で、ノルウェー・オスロ伝道部のジョン・ラングランド部長夫妻にお会いしました。わたしたちは、苦勞はしたもの**の**そのような遠隔地の教会員に会えたことをうれしく思いました。ところが、地元の教会の指導者と語らううちに、アルタよりもさらに北上した所に、世界最北の都市の一つハマーフェストがあり、そこにもう一つ小さな支部があるということを知ったのです。

そして、驚いたことに、わたしたちより数年前に、中央幹部として初めてこのハマーフェストに足を踏み入れた人がいたのです。それがハワード・W・ハンター長老でした。その訪問にまつ

わる話から、主が後に預言者、聖見者、啓示者として選ばれる男性について多くのことを学ぶことができます。

「ハマーフェストは、通常の交通手段では、行きにくい所にあります。もともとの計画では、二人の訪問者は、……水上飛行機で飛ぶことになっていました。今でもよくあることですが、天候が少し変わったために、飛行機を利用するという望みがまったくなくなってしまいました。そこで二人は民間の飛行場がありハマーフェストにいちばん近い町アルタから車を走らせることにしました。道路という道路が雪で覆われ始めました。雪の降り積もる中、ハンター長老と〔レオ・M・〕ジェイコブセン〔伝道部長〕の二人は、途中何度も車を押して行かなければなりませんでした。もうこれ以上先に進むのが不可能と思われたそのときに、1台のトラックがそばを通り、山頂を越えてハマーフェストまで、ハンター長老たちの車を牽引して行ってくれました。

集會はその夜の7時に開会するはずでしたが、二人の長老はやっとのことで、10時半に現地に到着することができました。そのような状況の中で、教会員のほとんどがずっと待っていてくれたのです。」(エリノア・ノウレス、Howard W. Hunter『ハワード・W・ハンター』175-176で引用)

ハマーフェストの會員は、何としても十二使徒に會って、主の特別な証人として召された人の声を聞きたいと願ったがゆえに、ハンター長老の到着が遅れたにもかかわらず、3時間半もの長い間ずっと待ち続けたのでした。そして會員たちの信仰と希望と祈りは、

ハンター長老が救い主について力強い証を分かち合ったときにすべて報われました。

ハンター大管長は、教会の新しい預言者として発表されたとき、次のように語っています。「主イエス・キリストの生涯と模範に、特に主が示された愛と希望と思いやりにさらに注意を払って生活するようにお勧めします。」(「尊く、大いなる約束」『聖徒の道』1995年1月号、9) 要約すれば、ほかの人に対するあらゆる言動において、イエス・キリストのような資質をはぐくみ、示すよう、ハンター長老は勧めたのです。今日、ゴードン・B・ヒンクレー大管長も同じことをわたしたちに勧めています。

御霊に従う

ハワイでの教会の割り当てのため、ワースリン姉妹とわたしがモロカイ島を訪問したときのことで。しばらく山歩きに汗を流した後で車に戻ろうとしたとき、展望台の方に向かう青年に出くわしました。わたしは丁重にあいさつをしました。彼の答え方から、ドイツ出身であることが分かりました。

その顔立ちは、彼が誠実な心と近づきやすい人柄の持ち主であることを物語っていました。わたしは彼と同じ言語を話し、その文化についてもいくばくかの知識があり、ドイツ語圏で伝道した経験もありました。わたしはこの青年に福音を紹介するようという御霊の促しを受けました。しかしながら、ほかの人がわたしたちの周りにいたためになかなか彼に話しかけることができず、イエス・キリストの回復された

福音について一言も話せませんでした。救い主の教会の会員はすべて宣教師である、という教えのとおり宣教師になることができなかつたのです。

車を運転しながらも、わたしは自分が福音を宣べ伝える義務を果たせなかつたという気持ちで悶々としていました。モロカイの美しい滝を見るべく、島内をドライブして回っているときも心は晴れませんでした。そのような中で、わたしたちが車を降りようとしたとき、別の車がやって来て止まりました。何と少し前に会ったあの青年が中から出て来て、わたしたちにほほえみかけ、握手を求めて来たのです。わたしは心の中でつぶやきました。「今度こそ、わたしは自分の義務を果たそう。」

わたしたちは自己紹介をし合いました。その中で、この青年がドイツのデュッセルドルフの南に位置する小さな町に住む大学生だということが分かりました。わたしはドイツでの楽しい思い出を話すとともに、ドイツ人に対する尊敬の念を伝えました。ヨーロッパでわたしがどんな仕事をしてきたかという話題になったとき、福音の基本原則について少し説明をするという絶好の機会に恵まれました。別れるときに、住所と電話番号を教えてもらえるかと尋ねましたが、彼は喜んで教えてくれました。わたしは文字どおり新しい友人を見つけたと感じました。

ソルトレーク・シティーに戻るとすぐに、わたしはドイツのデュッセルドルフ伝道部に手紙を書き、ジョン・F・チャールズ部長にお願いして、この青年に宣教師を送り、続けて福音を教えてもらおうように手配しました。わたし

も妻も、この青年に2度にわたって偶然に巡り会おうとは夢にも思っていませんでした。

ただ、主が必ずしも福音を分かち合う2度目の機会を与えられるとは限りません。わたしは御霊、すなわちわたしの心と思いはっきりと語りかける静かな細い声に、最初は従うことができませんでした。ひよっとしたら2度目の機会はなかつたかもしれないのです。しかし、主は恵みによってわたしにその機会を授けてくださいました。

御霊が語りかけたら、行動することです。御霊の声に従って行動したときに、あの青年もわたしのメッセージに快く答えてくれました。それは実際にはわたしのメッセージではありませんでした。主の御霊によりわたしの心に浮かんだ神のメッセージでした。わたしはただ神の御手に使われる者となっただけです。

御霊はいつも正しい方向へとわたしたちを導いてくれます。誘惑からわたしたちを守り、わたしたちの知性を照らし、わたしたちの心を慰めてくれます。どうぞ御霊に従い、最も大切な事柄に力を注いでください。

福音の真理は変わることがありません。キリストに従い、預言者に従い、御霊に従うならば、いつも正しい選択ができるでしょう。賢明な選択をするなら、その結果として皆さんの証は強まり、喜びと幸福、そして平安という大きな祝福を得られるでしょう。□

(1994年9月4日にプリガム・ヤング大学で行われたファイヤサイドにおける説教から引用)

「わたしたちは地上のだれ一人として受けていない特権に浴しています。……わたしはこのことに思いをはせると、7つの雷が火炎の舌をもって人々を眠りから覚まさせてくれたらと思うほどです。」

——ブリガム・ヤング

(『歴代大管長の教え——ブリガム・ヤング』327)



『聖徒の道』を予約購読し、神の生ける預言者の勧告と勧めを受ける特権を享受してください。

人生を半分寝たまままで歩んでよいものでしょうか。目覚めてください。そして今日から予約購読を始めてください。

『聖徒の道』には、次のような定期記事があります。

- 「大管長会メツセージ」
- 「生ける預言者の言葉」
- 総大会説教
- 教会指導者と会員によるその他の記事
- 「家庭訪問メッセージ」
- 分かち合いの時間のためのアイデア
- 青少年および子供たちを対象とした記事
- 「チャーチ・ニュース」

自分自身や友達のために予約購読をするには、以下の方法があります。

- 教会管理本部配送センターまたはワード／支部の図書主任に連絡を取る。
- 本誌1ページの連絡先に問い合わせる。



目覚めるために



「ちょうど証^{あかし}が毎日新たにしなければ
維持できないと同じように、
わたしたちの結婚生活も、
愛情あふれる言葉、速やかな^{ゆる}赦し、
そして思いやりに満ちた言葉遣いによって
養われていく必要があります。

……わたしたちの目標は、生涯を通じて、
繰り返し繰り返し、何度でも、
相手に恋をし直すことなのです。」

(本誌「実り豊かな結婚生活を送るために」
26ページ参照)



2902989913006

ゴードン・B・ヒンクレー大管長、 アメリカ合衆国とヨーロッパの聖徒たちを歴訪



ほほえみながら約3,000人ほどの聴衆に語りかけるヒンクレー大管長。メイン州ポートランド。

撮影/デビッド・ファーマージ

チャーチ・ニューズ

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は6月23日に88歳の誕生日を祝ったが、この6月は、二つの大陸、5か国を8日かけて歴訪し、教会員との集会を持ったり、また、イギリスのプレストン神殿の奉献式、ソルトレーク・シティにあるユタ大学の学位授与式での講話、プロボの宣教師訓練センターでの伝道部長や宣教師に向けた説教など、実に多忙な日々を過ごした。

メイン州ポートランド

ヒンクレー大管長は、フランス、ドイツ、スイスで教会員との集会を持ち、またイギリスのプレストン神殿の奉献を行うためにヨーロッパへ向かう途中、6月2日に合衆国のメイン州ポートランドに立ち寄り、市の中心部にある市民センターで、メイン州とニューハンプシャー州のステークから集った約3,000人の聖徒たちに向けて話をした。この集会には北アメリカ北東地域会長会会長を務める七十人のマーリン・K・ジェンセン長老も出席した。この旅にはマージョリー・ヒンクレー夫人も同行した。

ヒンクレー大管長はポートランドの集会でこう語った。「25年以上前は、全教会員の55パーセントがユタ州に住んでいました。そしてカリフォルニア、アリゾナ、アイダホの各州に若干の教会員がいて、わずかな数のグループが世界の各地に散在している状況でした。しかし今や、アメリカの主要都市で、教会の堅固な組織がない所はないと思います。この教会は全世界160か国に広がっています。わたしたちは1,000万人におよぶ大家族となり、皆ともに主イエス・キリストを礼拝しています。毎週日曜日には、2万4,000か所で会員たちが集い、実に数多くの言語で、同じレッスンを基に、同じ真理を学んでいます。」

「大きな社会組織」となった教会について、ヒンクレー大管長は次のように語った。「わたしたちはお互いに友人であり、愛し合っています。事実わたしたちは愛し合う気持ちが強いばかりに、聖餐会せいさんであまり敬虔けいけんでなくなってしまうことがあります。聖餐会でいつも互いに話をしています。教会の玄関の広間で話し合うことは差し支えありません。しかし、礼拝堂にいるときには、静粛に、



フランスの空港で、初等協会の子供たちの歌の歓迎を受けるヒンクレー大管長夫妻。
撮影/ジャン・ミシェル・フィタマン。

また敬虔にして、不敬なことがないようになければなりません。……教会に初めて来た人々がこの業の精神とわたしたち教会員の愛の精神を感じることができるよう、聖餐会ではもう少し敬虔にしましょう。

ニューハンプシャー州エクセターステーク、ローレンス（スペイン語）支部のジェイム・リベラ支部長はこう語った。「ここにいることは、名誉なことです。ここには謙遜けんそんな思いがあります。わたしたちがここにいるのは、主から与えられた特権です。」

フランス・パリ

ヒンクレー大管長は大西洋を越え、6月4日にフランスのパリに到着した。その日の午後にはベルサイユの集会所に集った宣教師たちに、そして夜にはパリにある二つのステークとその周辺の3つの地方部から集った2,400人の会員を前に語った。週日の夜であったことをかんがみ、ヒンクレー大管長は、「ここへ来てくださって、ほんとうにありがとうございます。遠路はるばる来られた方々もいらっしゃいます。感謝の気持ちをお伝えしたいと思います」と話した。大管長のヨーロッパ歴訪の旅には、ヨーロッパ西地域会長会会長のデーター・F・ワークトドルフ長老が同行した。

ヒンクレー大管長はフランスの美しい田園風景とパリの美しい町並みについて語った後、次のように語った。「しかし、この偉大な国の中で最も美しいのは、この業が真実であるという確信を心の中に持っておられる人々です。この確信を持っておられないとすれば、

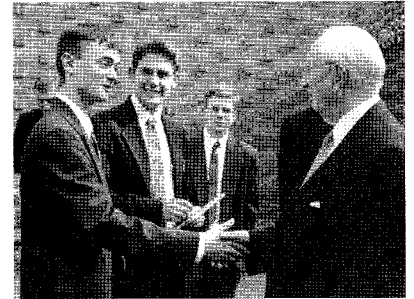
それは最高のものを見逃しておられるということです。皆さん一人一人に、この確信を得る機会と責任が与えられています。それを得るにはどうしたらよいのでしょうか。教会での奉仕、また自分に求められたことをするようにしてください。主が皆さんに不可能なことをするようにお求めになることは決してありません。自分は弱くて、そのようなことはとてもできないと思うことがあるかもしれません。そのようなときは、ひざまずいて、主に助けを祈り求めてください。主は皆さんを祝福してください。聖文に書かれた主の言葉を読んでください。そうすれば、主が祝福を授けてくださいます。」



パリの大会会場でヒンクレー大管長に別れのあいさつをする約2,400人の聖徒たち。
写真/ジャン・ミシェル・フィタマン。

その後、ヒンクレー大管長はフランスに建てられるべき神殿について語った。「戦争の後にわたしがこの国へ来たとき、ほんのわずかな教会員しかいませんでした。それが今では3万人を数えるまでになっています。思わせぶりなことは申し上げません。皆さんが神殿を受けるに値する時がすでに来ています。これからわたしたちは、それを建てるための場所を探します。その場所が見つかるまでどのくらいかかるかは申し上げられません。兄弟姉妹、わたしたちがこの大きな街かその近郊で主の宮を建てるための土地を見つけれよう、皆さん一人一人が祈りの中で主に求めてくださるようお願いいたします。ここに神殿ができれば、皆さんは5時間かかるフランクフルト、また、6時間かかるゾリコーフェン〔スイス〕まで行かなくて済みます。わたしたちと心を

一つにして祈り求めてください。そうすれば、その時がやって来ることでしょう。わたしは、この地域のどこかに主の宮である神聖な神殿を建てられる日が早く来ることを願っています。そうすれば、皆さんはそこに参入し、主の神殿の中でしか行われぬ業を行えるようになるのです。」



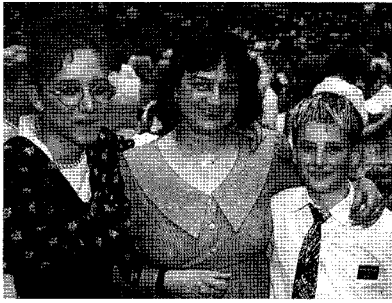
パリで伝道中の専任宣教師たちにあいさつするヒンクレー大管長。
撮影/ジャン・ミシェル・フィタマン。

ドイツ・フランクフルト

6月5日、ヒンクレー大管長はドイツのフランクフルトに入り、大きなスポーツセンターを埋めた約8,000人の会員を前に次のように語った。

「子供をお持ちの皆さんに一言申し上げたいと思います。これは主から授けられた戒めです。『あなたの子らはみな主おれに教をうけ、あなたの子らは大いに栄える。』（イザヤ54：13）皆さんは子供たちの親です。彼らの父親であり、母親です。また彼らに訓練と教えを与える立場にいます。皆さんには、信仰と真理の中に子供たちを育てるといふすばらしい機会と責任が与えられています。皆さんに約束します。子供たちが自立し、それぞれの道を進むようになったら、そのとき皆さんはひざまずいて、自分に与えられた恵みについて主に感謝するようになるでしょう。それ以上にすばらしいことはないと思います。皆さんにとって、子供たちの姿を見て、何かを成し遂げたという結果だけにとどまらず、善良さ、安らぎ、徳、優しさ、愛を見いだすことができたとしたら、これに勝ることはないでしょう。」

午後の専任宣教師との集会で話した



ドイツ・フランクフルトの聖徒たち。

撮影/ロバート・H・ハーモン。

めにヒンクレー大管長が集会場に入ったとき、地元の会員マーガレット・アン・ドラモンド姉妹から花束を手渡された。ドラモンド姉妹は夜の一般大会においても200人の聖歌隊の一員として賛美歌を歌った。彼女は次のように語っている。「これはとても素晴らしい経験です。大管長がここにおいでになられたことをとてもうれしく思っています。」

スイス・ジュネーブ

ヒンクレー大管長がプレストン神殿奉獻のためにイギリスに渡る前に、ヨーロッパ大陸の最後の訪問先として訪れたのはスイスのジュネーブだった。ここで大管長は、フランスのニース、リヨン、またスイスのジュネーブ、チューリッヒ、ベルンから集った約4,200人の教会員を前にメッセージを語った。

「ここジュネーブを訪れ、わたしは幸せな気持ちを感じています。かつてこの地は、宗教改革者たちをかくまい、当時の宗教界の大勢とは異なる論を唱える人々の安全な避難所となった場所です。わたしは、宗教改革者たちは、福音を宣べ伝えに天使が来るときのために、その基を築くよう神から靈感を授けられていたと信じています。ルターなどの宗教改革者たちに敬意を表したいと思います。彼らは孤独を覚えながらも、立ち上がりました。命をなげうった人々もいます。ジョセフ・スミスも14歳のときに同じ孤独を覚えました。彼はあざけられ、迫害されました。彼の言葉の中にその孤独感を見ることができます。「真実を告げたことで、なぜわたしを迫害するのか。」(ジョセフ・スミス-歴史1:25)

ヒンクレー大管長はその話の最後に

こう語った。「兄弟姉妹の皆さん。皆さんは福音を受け入れましたが、たとえそれによって孤独な状況になることがあっても、耐えなければならないということをお忘れしないでいただきたいと思います。世の人々に嫌な顔をされたり、友人にあざけられたりすることがあるかもしれません。しかし皆さんは生涯、自分自身の証を強めていかなければなりません。大胆かつ穏やかに、そして自信と確信をもって歩んでください。」ヒンクレー大管長の今回のヨーロッパ歴訪について、ワークトドルフ長老は次のような感想を述べている。「今回の素晴らしい訪問は、ヨーロッパに教会を確立する業に、新たな幕開けのページを残すことになるでしょう。」どの集会でも、それが終わった後で出席者たちは互いに抱き合い、生ける預言者について証していた。祈りがこたえられた喜びに、多くの人が涙を流した。

ユタ大学の学位授与式

ヨーロッパから帰国したヒンクレー大管長は、6月12日にユタ大学で1998年度の卒業生、約6,000人に向けて講話をした。ヒンクレー大管長は1932年にユタ大学を卒業し、1992年には同大学の名誉博士号を受けている。

「わたしたちは空中ブランコの乗り手と同じように、空を飛んでいます。心は非常に穏やかです。コンピューターはわたしたちの生活を大きく変えてきました。様々な書物が印刷され続けていますが、将来は電子出版が有望視されています。わたしたちは今インターネットという非常に素晴らしい道具を手にはしていますが、適切に用いれば、世界中から知識を得ることができます。原子エネルギーは良い面と悪い面の両方に用いられています。科学の進歩は際限を知らず、果てしない夢が広がっています。さて皆さんは今大学の卒業生としてこの場に集い、この奇跡の世界のただ中に生きています。これらの道具は皆さんの道具となり、この世界は皆さんの世界となります。いずれ皆さんは結婚し、家族を養うようになります。ぜひ強く、愛情のある親になっ



ヒンクレー大管長のメッセージを聞くためにフランクフルトに集った約8,000人の教会員。撮影/ロバート・H・ハーモン。

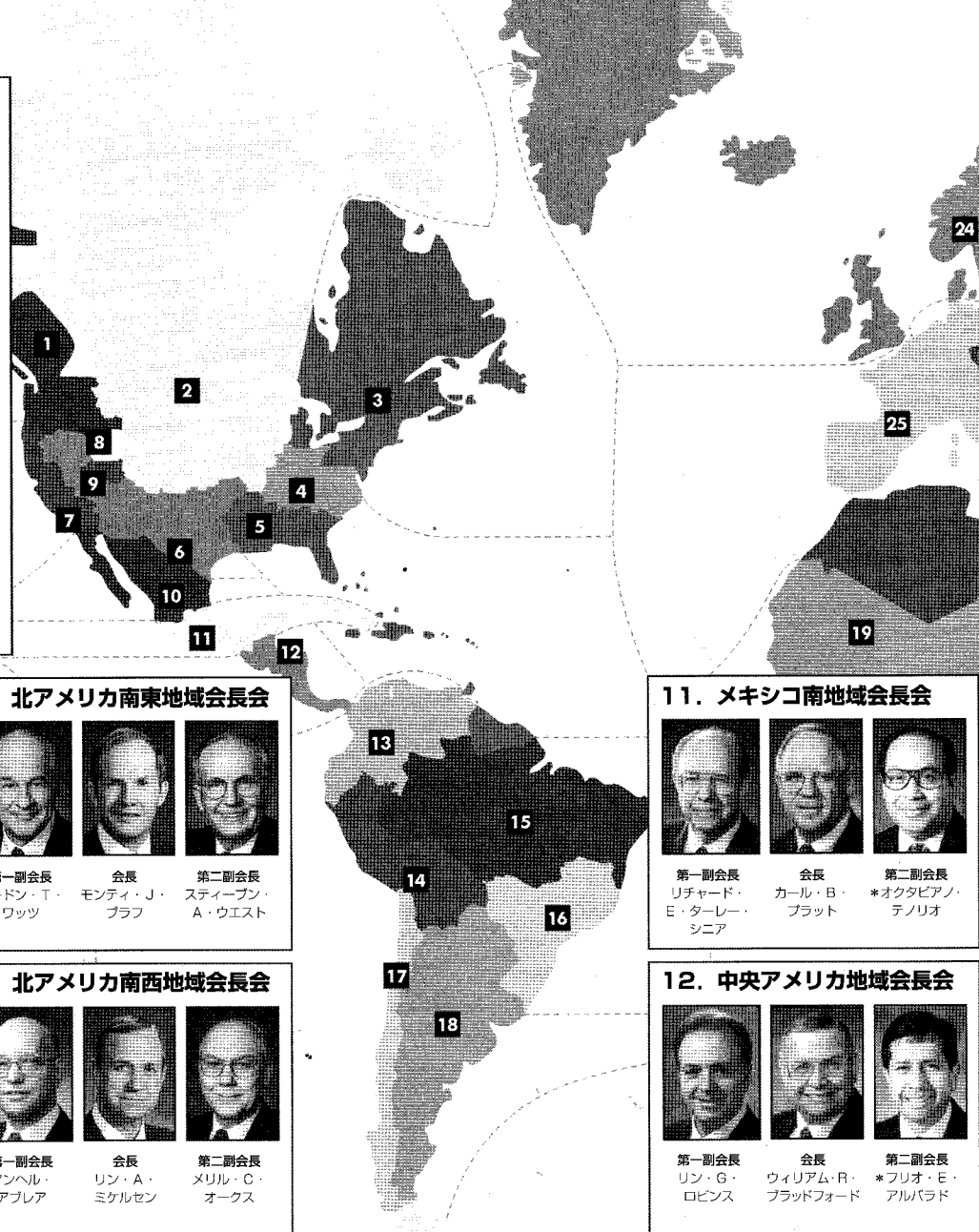
ていただきたいと思います。世界中で家庭の崩壊が進んでいます。わたしが心から愛する若い友人の皆さんにお願いします。どうか皆さん自身がこの悲劇の中に飲み込まれることがないようにしてください。逆にこの大きな流れを食い止める力になっていただきたいと思います。皆さんが親として果たす役割以上に大切なものはほかに何もありません。」

さらに、ヒンクレー大管長は卒業生たちに次のように求めた。「人生の中で何をするかを計画するときに、報いを得ることを考えずに、苦しむ人そして助けを必要とする人々のために、自分の時間の一部をささげる決心をするように求めたいと思います。学んだことはそれぞれに異なると思いますが、皆さんの能力が必要とされています。皆さんが差し伸べる助けの手は、苦しみの中にある人々を救い出すことでしよう。皆さんのしっかりとした意見は、もしそれを聞かなければ、ただあきらめるしかないかもしれない人々に励ましを与えることでしよう。皆さんが身に付けた事柄は、優れた素晴らしい方法で、苦しい道を歩んでいる人々の生活を変えることができます。それをするのが今でないとしたら、一体、いつになるのでしょうか。それをするのが皆さんでないとしたら、一体、だれがするのでしょうか。職業に就き、結婚し、ぜいたくな暮らしを可能にする収入を得るために働くだけでは十分ではありません。それらのものはどれも、何がしかの現実的な喜びを与えてくれるかもしれませんが、本源的な満足は与えてはくれないでしょう。」□

地域会長会の 新たな任地

この度、大管長会と十二使徒定員会は地域会長会の任地の変更を発表した。この変更は1998年8月15日から有効となっている。地域会長会の会員は皆、七十人定員会の会員である。

* 地域幹部七十人

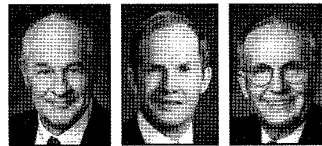


1. 北アメリカ北西地域会長会



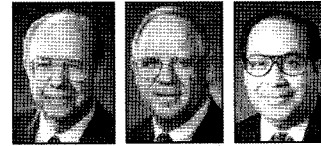
第一副会長 レックス・D・ピネガー
会長 F・メルビン・ハモンド
第二副会長 D・リー・トブラー

5. 北アメリカ南東地域会長会



第一副会長 ゴードン・T・ワッツ
会長 モンティ・J・ブラフ
第二副会長 スティーブ・A・ウエスト

11. メキシコ南地域会長会



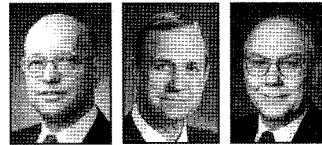
第一副会長 リチャード・E・ターレー・シニア
会長 カール・B・プラット
第二副会長 *オクタビオ・テノリオ

2. 北アメリカ中央地域会長会



第一副会長 ケネス・ジョンソン
会長 ヒュー・W・ビノック
第二副会長 菊池良彦

6. 北アメリカ南西地域会長会



第一副会長 アンヘル・アブレア
会長 リン・A・ミケルセン
第二副会長 メリル・C・オークス

12. 中央アメリカ地域会長会



第一副会長 リン・G・ロビンズ
会長 ウィリアム・R・ブラッドフォード
第二副会長 *フリオ・E・アルバラド

3. 北アメリカ北東地域会長会



第一副会長 ドナルド・L・ステアラー
会長 ジェイ・E・ジェンセン
第二副会長 ゲーリー・J・コールマン

7. 北アメリカ西地域会長会



第一副会長 ジョン・M・マドセン
会長 ジョン・B・ディクソン
第二副会長 セシル・O・サミュエルソン・ジュニア

9. ユタ南地域会長会



第一副会長 デニス・B・ノイエンシュワンダー
会長 ベン・B・バンクス
第二副会長 ニール・L・アンダーセン

13. 南アメリカ北地域会長会



第一副会長 ロバート・J・ホエッソン
会長 フランシスコ・J・ビーナス
第二副会長 *ホルター・F・ゴンザレス

4. 北アメリカ東地域会長会



第一副会長 ローレン・C・ダン
会長 ジョン・K・カーマック
第二副会長 W・ドン・ラッド

8. ユタ北地域会長会



第一副会長 ロバート・K・デレンバック
会長 アレクサンダー・B・モリソン
第二副会長 ジョン・H・グローバーク

10. メキシコ北地域会長会



第一副会長 デール・E・ミラー
会長 エラン・A・コール
第二副会長 *トマス・バルデス

14. 南アメリカ西地域会長会



第一副会長 ネット・B・ルーシェ
会長 リチャード・J・メインズ
第二副会長 *ジョン・ウセダ

24. ヨーロッパ北地域会長会



第一副会長 W・ロルフ・カー
会長 スペンサー・J・コンディー
第二副会長 *ジョン・マックスウェル

26. ヨーロッパ東地域会長会



第一副会長 F・エンツィオ・ブッシェ
会長 チャールズ・ディディエ
第二副会長 ウェイン・M・ハンコック

27. アジア北地域会長会



第一副会長 L・エドワード・ブラウン
会長 L・ライオネル・ケンドリック
第二副会長 E・レイ・ペイトマン

25. ヨーロッパ西地域会長会



第一副会長 ジーン・R・クック
会長 ディーター・F・ワークトドルフ
第二副会長 F・バートン・ハワード

28. アジア地域会長会



第一副会長 リチャード・E・クック
会長 クリー・L・コップオード
第二副会長 H・ブライアン・リチャーズ

15. ブラジル北地域会長会



第一副会長 J・ケント・ジョリー
会長 クラウディオ・R・M・コスタ
第二副会長 *イラハ・B・ゾアレス

16. ブラジル南地域会長会



第一副会長 アトス・A・アモリム
会長 W・クレイグ・スウィック
第二副会長 *アデマール・ダミアニ

18. 南アメリカ南地域会長会



第一副会長 リチャード・D・オールレッド
会長 カロス・H・アマゾン
第二副会長 *ヒュゴ・A・カトロン

20. アフリカ南東地域会長会



第一副会長 レイ・H・ウッド
会長 デニス・E・シモンズ
第二副会長 *クリストフェル・ゴールデン・シニア

22. 太平洋諸島地域会長会



第一副会長 ロナルド・T・ハリバーソン
会長 クエンティン・L・クック
第二副会長 アール・M・モンソン

17. チリ地域会長会



第一副会長 ジェラルド・L・テラー
会長 ダラス・N・アーチボルド
第二副会長 *エドワード・A・ラマルティネ

19. アフリカ西地域会長会



第一副会長 グレン・L・ペイス
会長 ジェームズ・O・メーソン
第二副会長 *エマニュエル・O・オバシ・シニア

21. フィリピン地域会長会



第一副会長 デュエイン・B・ジェラード
会長 シェルドン・F・チャイルド
第二副会長 バル・R・クリステンセン

23. オーストラリア/ニュージーランド地域会長会



第一副会長 ブルース・C・ヘーフエン
会長 ボーン・J・フェザーストーン
第二副会長 *P・ブルース・ミッチェル

新伝道部長セミナー

毎年恒例の新伝道部長セミナーが6月23日から26日までプロボの宣教師訓練センターで開かれ、新たに召された110人の伝道部長と夫人たちが大管長会、十二使徒定員会、七十人および管理監督会の会員から指導を受けた。

6月26日のセミナー最後の部会で、ゴードン・B・ヒンクレー大管長は「改宗者は非常に大きな決断をして教会に入ります」と述べた。「定着は本来地元のワードや支部の責任です。しかし、皆さんにも大切な、非常に大切な役割があります。皆さんの宣教師は、求道者の改宗が本物で、その人の人生を変えるものであり、永遠に、世代を超えて続くものであることを確認したうえでバプテスマを施さなければなりません。定着しないバプテスマはだれの益にもなりません。宣教師の努力は水泡に帰し、教会は統計上成長するものの、最も被害を被るのは会員たちです。改宗者の熱意も灰と化してしまいます。」

また、ヒンクレー大管長は伝道部長と夫人が宣教師たちを愛することについて次のように語っている。「皆さんの最も大きな責任はまず宣教師に対してです。これは皆さんよく承知のとおりです。彼らの福利は皆さんの手にゆだねられています。宣教師は特別な存

在です。ごくわずかな例外を除き、宣教師には2年間教会に子供を託してくれた母親がいるからです。彼らの伝道を支えるために働いている母親も少なくありません。彼女たちは皆さんのために祈っているのです。」

トーマス・S・モンソン第一副管長は、6月24日に新伝道部長に説教を行い、「宣教師と会員との協力がなければ、いかなる伝道部も最大の成果を上げることにはできません」と述べている。「預言者ジョセフ・スミスは、肉体の力ではなく、知力を活用して働くように教えました。リフォロー（訳注—会員が、福音に関心のある人を宣教師に紹介すること）はその良い例です。会員の組織とともに働くことにより、友情とちみつなフェロウシップを通して人を神の王国へ招き入れることができるからです。すべての伝道部長、ステーク会長、地方部長が伝道活動のパートナーとなるなら、伝道の業はきっと飛躍的に進むことでしょう。」

ジェームズ・E・ファウスト第二副管長は、6月23日セミナーの最初のセッションで説教し、「力と権能と確信をもって、最も偉大な預言者ジョセフ・スミスと彼がもたらした『モルモン書』を高らかに証あかしできるように」と励ました。ま



新伝道部長セミナーで訓練を受ける台湾・台中伝道部の
テニス・チャイ・ハン・キム部長夫妻。

写真/ジョン・L・ハート。

『チャーチニュース』(Church News)の厚意により掲載

た、ファウスト副管長は伝道部長たちの犠牲をたたえ、こう語った。「数え切れないほど多くの祈りが皆さんと皆さんの宣教師のためにさざげられ、天に昇って行きます。そしてその祈りは必ずこたえられるのです。」

このほか中央幹部では、十二使徒定員会会長代理のボイド・K・バックー長老、十二使徒定員会のデビッド・B・ヘイト長老、ジョセフ・B・ワースリン長老、リチャード・G・スコット長老、七十人会長会から7人の全会長、七十人第一及び第二定員会から数人の幹部と管理監督会のリチャード・C・エッジリー副監督が、セミナーの様々なセッションに参加した。教会では現在約5万8,000人の宣教師が150か国以上、計331の伝道部で奉仕している。□

心に残る、音楽による伝道

ゲーリー・アバント

モルモンタバナクル合唱団は、6月12日から7月2日までヨーロッパ公演旅行を行い、イギリスのロンドン、ベルギーのブリュッセル、スイスのジュネーブ、イタリアのトリノとローマ、フランスのマルセイユ、スペインのバルセロナ、エルエスコリアル、マドリッド、ポルトガルのリスボンで公演を行った。

ヨーロッパ公演旅行は7月2日に終了したが、この3週間の音楽による伝道

の効果は目覚ましく、人々の心の中に長くその記憶をとどめるであろう、と公演が行われた地域を管理する伝道部長たちは語った。

スイス・ジュネーブ伝道部のレックス・J・アレン部長は次のように語った。「公演は人々を教化するものでした。すべての人が高められたのです。教会が真実であり、善意に満ちて健全で、すばらしいところであるとすべての人が感じる助けになりました。人々

が教会に関する理解を深める良い機会になりました。

わたしの知るかぎり、少なくとも二人の人が教会への加入を真剣に考えています。ジュネーブでの公演を聞いて感じた印象から、教会に入って仲間に加わりたと思ったのです。そのような人がもっと大勢いると確信しています。

会員も非常に感動し高められました。また、この都市に住む洗練された多くの友人たちの心の琴線に触れました。

スペインのバルセロナで
毎週放映されるテレビ番組に出演し、
合唱するモルモンタバナクル合唱団。
6月12日から7月2日にかけての
公演旅行中に行われた3つの放送の一つ。
写真/ゲラリー・アバント。
『チャーチニュース』の厚意により掲載。



公演後のレセプションで、現地の国連の重要職にある女性は、合唱団のメンバーの一人に対し、次のように語りました。『この教会は真実だと確信しています。誤った所からは、よい気持ちがこれほど強く生じるはずがありません。』彼女が、この教会は真実だと答えたとき、そのメンバーは目に涙を浮かべました。』

フランス・マルセイユ伝道部のエルバート・M・ダンシー部長はこう語っている。「合唱団の訪問は、わたしたちの士気を大いに高めてくれました。会員に格調高い合唱団のコーラスに接する機会を与えてくれたのです。公演の後、その評判は大きく広がって行きました。」

公演の際、一組の姉妹宣教師が教会員でない夫婦と席を共にしたときの様子について、伝道部長はこう話している。「休憩時間の間、その夫婦の隣に座っていた一人の教会員が音楽に心を動かされ、身を乗り出して彼らに証を述べ始めたのです。」

ベルギー・ブリュッセル伝道部のH・レイ・ハート部長はこう報告している。「合唱団のメンバーの一人が友人を宣教師に紹介したのですが、7月15日の時点でその友人に第3課のレッスンを教えています。」家々のドアが宣教師のために開かれ、人々がわたしたちを認め家庭に招き入れてくれるのは、合唱団の力強い影響力が人々の心の中に及んだからです、と伝道部長は言う。「人々はブリュッセル、リエージュ、アントワープ、そのほか多くの都市から公演に訪れました。そして、歌を口ずさみ、心に御霊を感じ、高められ教化されて家路に就いたのです。教会員でない人々は、このようなすばらしい催しに参加したのは初めてだと語っています。以前求道者だった幾人

かは、宣教師に電話し、再び招いてくれました。」

イタリア・ローマ伝道部のレオーネ・J・フロシ部長はこう言っている。「末日聖徒イエス・キリスト教会は、ローマでは人に知られていませんでした。この地で30年以上も伝道を行ってきたにもかかわらず、一般市民と政府の役人には比較的知られていませんでした。しかし合唱団のすばらしい精神が、多くの人々の心に触れ、多くの報道関係者と著名な人物が公演の後宣教師を訪ね、福音を学べるように手配できたのです。」

主が、公演に出席した多くの人々の心の琴線に触れ、伝道の祝福を与えてくださったことは明らかです。その中には、イタリア共和国の高官や国連の代表者の人たちもいました。わたしたちが得た最も大きな利点とタバナクル合唱団がわたしたちに残した最も顕著な祝福は、わたしたちが築いた基礎を強固にし、イタリアに光をもたらして教会が暗闇から出て来るようにすることです。」

スペイン・マドリッド伝道部のステイブン・R・シャレンバーガー部長

はこう述べている。「宣教師が一人の求道者を教えていました。その求道者は教会の集会には出席していましたが、バプテスマの決意には前向きではありませんでした。しかし宣教師がその求道者と奥さんを公演に連れて行った後、確かな証が得られたと語りました。彼は7月11日にバプテスマを受け、奥さんは今バプテスマの準備をしています。」

公演は、会員と宣教師の精神を大いに高めた。それは伝道のためだけではなく、教会を強めるためでもあったと、シャレンバーガー部長は話している。「皆、合唱団から御霊を感じました。合唱団に去ってほしくなかったのです。皆の拍手は延々と続きました。それは、聴衆からの愛を伝える方法でした。」

合唱団がもたらした御霊はここで会員とともにとどまっています。宣教師は100人近い求道者を見つけ、公演に出席した多くの人々も教会について初めて学びました。わたしたちは、合唱団のマドリッド訪問がもたらした影響を数か月にわたって見ることでしょう。至る所ですばらしいことが起きています。これは今世紀最大の経験だと思います。」

ポルトガル・リスボン北伝道部のカルビン・C・クレグ部長は、合唱団が来る前に宣教師がある家族を教えたと言う。「ここリスボンの公演に出席した後、その家族の一人が宣教師のもとに来て、教会の会員になりたいので急いでレッスンを全部教えほしいと伝えたのです。」

クレグ部長は、公演に訪れたとき、何人かの音楽評論家を目にしたと言う。「それは、公演内容を非常に気軽に鑑賞するその身振りで分かりました。しか

しプログラムの2曲目の後、彼らは姿勢を正し始めました。そしてメモを取ったのです。公演の終わりにはいちばん最初に立ち上がって、『ブラボー！アンコール！』と叫んだのです。」

クレグ部長は、合唱団が求道者や教会員でない人々にとり非常によかったと同時に、会員にとってもさらに益をもたらすものであったと言う。「ここポルトガルでは、彼らは開拓者です。この地では、教会に集う人々はごく少数にすぎません。モルモンタバナクル

合唱団の公演が人々に知られるようになると、突然、彼らは何か非常に大きな組織に属していると感じたのです。それはとてもよい気持ちでした。これらの会員は、伝道部内の至る所から集まって来ました。周囲に住む非常に多くの末日聖徒と一堂に会し、友情を培うことにより、大いに励まされ、誇りを感じました。それは、彼らがほんとうに必要としていたものだったのです。」□
『チャーチニュース』(Church News)の厚意により、1998年7月18日付けの記事より掲載。

「分かち合いの時間のためのアイデア」追加分 1998年11月

以下は、初等協会の指導者が『聖徒の道』1998年11月号に掲載の「分かち合いの時間」とともに使用できる「分かち合いの時間のためのアイデア」追加分である。これらのアイデアに対応するレッスン、指示、活動は、本号「こどものページ」6、7ページ「『ありがとう』のことば」を参照する。

1. 「感謝のいのり」(『子供の歌集』18)と、「主のゆたかなめぐみ」(『子供の歌』A-15)の歌を教える。各クラス用に、別々の紙に以下の参照聖句の箇所を書いて準備する。(1)『モルモン書』ヤコブ4:3—ヤコブはわたしたちが神の言葉に感謝するよう願っている。(2)エテル6:8, 9—ヤレドの民は旅の間、守りと光があることに感謝している。(3)モーサヤ24:20-22—アルマの民は重荷を軽くされ、囚われの身から解放されたので感謝している。(4)教義と聖約89:10-12—わたしたちは、神が与えてくださった食物に感謝すべきである。(5)教義と聖約59:7—わたしたちはすべてのことについて、主に感謝しなくてはならない(教義と聖約59:15-21も参照)。黒板に、[]に感謝する、と書く。各クラスに最初の参照聖句を書いた紙を配る。聖句の箇所を見つけて読ませ、聖典に出てくる

人々は何に感謝したのか、(あるいは、わたしたち対し、何に感謝するよう勧めているか)決めさせる。黒板の空欄に正しい答えを書き込む。感謝の歌を1曲歌いながら、最初のクラスが答えを読み上げてグループを導く。ほかの聖句についても、この手順を繰り返す。

2. 詩篇は神に対する賛美であり、しばしば音楽に合わせて作られている。子供たちが『聖書』の詩篇第23章を読んでいる間、ワード/支部の一人の大人または子供に「主はわが飼い手」(『賛美歌』63番)を歌ってもらおう。歌い手に感謝を述べる。詩篇の多くは感謝、感謝の言葉、そして心に強い印象をもたらす主への賛美を美しい言葉で表現したものが多く(詩篇24:1-4; 27:1; 100も参照)。詩篇第23篇の歌か、朗読を聞いた後に、子供たちの心に浮かんだ絵を描かせる。詩篇全体を1枚の絵で表そうとする子供もいれば、それぞれの節に対して小さな絵を描こうとする子供もいる。子供たちが絵を描いている間、伴奏者に穏やかな音楽を演奏してもらおう。

3. 各クラスで、あるグループが奉仕を受けるが、一人だけが感謝するという場面を設定し、簡単な寸劇をさせる。例えば、レッスンの終わりに一人の生徒だけが先生に感謝する。フット

ボールの練習場に到着したとき、チームのメンバー一人だけが運転手に感謝する。パーティーの終わりに、一人の招待客だけが立ち止まって招待してくれた人に感謝する。試合の終わりに、一人の選手だけがコーチに感謝する。食事の終わりに、家族のうち一人だけが料理した人に感謝する。このような場面を見て、聖典のどんな物語を思い出すか、子供たちに尋ねる。10人のらい病人の話をする(ルカ17:11-19参照)。わたしたちは、この話の中で後に戻って感謝をしたそのうちの一人のようになりたいことを指摘する。主はわたしたちが感謝するよう望んでおられる。なぜなら、それは正しいことであり、またわたしたちが感謝する気持ちを抱けば、もっと幸福になることを御存じだからである。各クラスで一人一人の子供が、全員感謝するという場面にして、もう一度演じさせる。

4. 感謝についての補足資料として、「感謝の心」『聖徒の道』1998年11月号、こどものページ、5; 「ありがとうゲーム」『聖徒の道』1995年2月号、こどものページ、6; 「一番のありがとう」『聖徒の道』1998年4月号、こどものページ、14; 「思い出したロベルト」『聖徒の道』1998年11月号、こどものページ、8-9を参照する。□

イギリス・プレストン神殿の奉献

「あなたの選ばれた僕たちが極度の貧困と闘い大きな犠牲を払いながら、回復された福音を最初に宣べ伝えたこの美しい地に、この荘厳な神殿が建設されました。」ゴードン・B・ヒンクレー大管長は1998年6月7日、イギリス・プレストン神殿の奉献式の最初のセッションでこのように祈りをささげた。「過去161年間、イギリスは、スコットランド、ウェールズ、アイルランドとともに、あなたの教会の祝福と力になった多くの改宗者を輩出してきました。」



新しい神殿は床面積6,000平方メートルの3階建てで45メートルの尖塔には天使モロナイの像が立っている。

写真/ジョン・フィリップソン

ンダのロッテルダム地区大会で説教し、デンマークのコペンハーゲンでは福音を宣べ伝えるために再奉献の祈りをささげている。

そのほか、ボイド・K・パッカー十二使徒定員会会長代理をはじめ、十二使徒定員会会員のM・ラッセル・バラード長老らにジェフリー・R・ホランド長老、七十人会長会で神殿部管理部長のW・ユージン・ハンセン長老、七十人でヨーロッパ北地域会長会を構成するセシル・O・サミュエルソン・ジュニア、スペンサー・J・コンディ、W・ロルフ・カーの各長老が奉献式の様々なセッションで言葉を述べた。

オープンハウスは5月16日から30日まで開かれ、その間およそ12万3,000人が奉献前の神殿を見学している。メディアツアーには約70人のテレビ、ラジオ、新聞関係のジャーナリストが参加し、ほかに政府指導者や神殿近辺の住民のためにそれぞれ特別なツアーが行われた。オープンハウス期間中は、24のステークから2,500人の会員がボランティアとして奉仕した。姉妹宣教師は受付に、専任宣教師の長老たちは特に身障者のためのアッシャーとして配置された。

神殿はプレストン郊外チャーリーのハイウエー交差点近くに位置し、床面

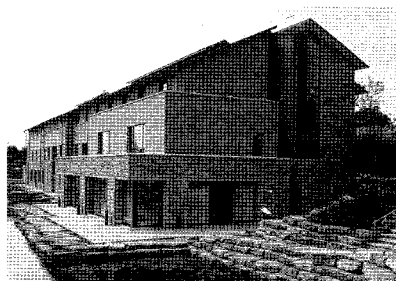
積6,000平方メートル、3階建ての建物に儀式執行の部屋と結び固めの部屋が各4室備えられている。高さ45メートルの塔の尖塔には天使モロナイの像が据えられている。神殿区は北イングランド、北ウェールズ、スコットランド、アイルランドと北アイルランド地方の21のステークと二つの地方部から成る。

「あなたの民が喜んでここに集い、あなたとの聖約に入って、高い所から力を授けられますように。」ヒンクレー大管長は奉献の祈りでこう述べている。「彼らが祭壇にひざまずき、聖なる神権の権能の下で家族としてともに結び固められますように。また、頻繁に神殿に戻り、御子の来臨の時に全地がごとごとく荒廃することのないよう、死者のための身代わりの儀式という偉大で無私の奉仕の業を押し進めることができますように。生者の身代わりを通して、死者の大群衆がこの神殿で儀式を受ける機会にあずかりますように。」□



5月16日から30日まで開かれた神殿オープンハウスには、およそ12万3,000人が参加した。

写真/ジョン・フィリップソン



宣教師訓練センター。この訓練センターは、イギリス・プレストン神殿の複合式建物の中にある、数棟の新しい教会施設の一つである。

写真/ジョン・フィリップソン

奉献式は6月7日から10日まで15のセッションが行われ、合計約1万8,000人が出席した。新神殿は、ステークセンター、宣教師訓練センター、家族歴史施設、配送センター、神殿参入者宿泊施設、神殿宣教師アパート、そして施設管理ビルから成る複合式建物の中心を成している。最初の13のセッションはヒンクレー大管長の管理の下で開かれ、最後の二つのセッションは大管長会のトーマス・S・モンソン第一副管長が管理した。

プレストン訪問を前に、ヒンクレー大管長はメーン州、フランス、ドイツ、スイスなどを歴訪している。一方、モンソン副管長はイギリス到着前にオラ

世界初の小規模の神殿のオープンハウス

R・スコット・ロイド

教会の歴史上初の小規模の神殿の完成を祝って、赤岩に覆われた南ユタで、7月15日から18日にかけて一般の人々を対象にオープンハウスが行われた。

新たに建設されたユタ州のモンティチェロ神殿は、通常の末日聖徒の集会場の半分以下の床面積とはいえ、主の宮にふさわしい荘厳さとすべての機能を備えている。そして、七十人でユタ南地域会長会会長であるベン・B・バンクス長老の言葉にあるように、この神殿は、ほかの神殿と寸分たがわぬ同じ基準にのって建設された。

床面積わずか650平方メートルのモンティチェロ神殿は、1997年10月の総大会でゴードン・B・ヒンクレー大管長が発表した、小規模の神殿の先駆けとなるものである。これに比べて、最近イギリスで奉献されたプレストン神殿は、総面積6,000平方メートルで、神殿わきの集会場だけでも1,700平方メートルに及ぶ。

隣接する集会場で行われた会見で、バンクス長老は次のように述べた。「この礼拝堂もすばらしい建物ですが、……教会では、神殿と礼拝堂は別のものです。神殿は奉献と同時に主の宮となるため、限りなく完全にまた正確に建設されるのです。」

これまでに建設された神殿と同様、新設されたこの神殿にも、日の栄えの部屋とバプテスマフォントを備えた部屋を各一室ずつ有している。しかし、儀式を執行する部屋は一つで、座席数は50と限られている。結び固めの部屋も一室だけで、参入者の人数に応じてカーテンで仕切り、調節ができるように工夫されている。

外装は白亜の大理石で、尖塔の先端には、これまでの神殿のモロナイ像に



ユタ州に建設されたモンティチェロ神殿は、床面積はわずか650平方メートルにすぎないが、その荘厳さと機能はほかの神殿とまったく変わらない。

比べてユニークなデザインと構造ともいえるアクリル性の白い天使モロナイ像が据えられている。

モンティチェロ神殿の鍍入れ式は、総大会でゴードン・B・ヒンクレー大管長が新しい神殿について発表した数週間後の1997年11月17日に行われた。この総大会では、ほかにも二つ小規模の神殿の建設に関する発表が行われ、現在、アラスカ州のアンカレッジとメキシコのコロニア・ファレスで神殿の建設が行われている。

モンティチェロ神殿は、今後建設される小規模の神殿のひな形となるものであるが、今後新設される神殿は、幾つかの点でモンティチェロ神殿とは異なる、と教会建築部門のデビット・メイ兄弟は語っている。彼の説明によるとアンカレッジとメキシコに建設中の神殿は、モンティチェロ神殿と床面積は変わらないが、独特のスタンドグラスが導入されているほか、外装用の石材や尖塔の設置にも独創的な仕様が施されることになっている。

メイ兄弟の話では、アンカレッジとコロニア・ファレスで建設中の小規模の神殿の後に建てられる神殿は、基本的にはそれまで建設された3つの神殿の様式に倣うものの、結び固めとエン

ダUMENTのための部屋が各々増設されるという。

ほかに、従来の神殿と小規模の神殿の違いとして以下の点が挙げられる。

●儀式を受けるには、神殿長会を通じて予約をする必要がある。モンティチェロ神殿は、火曜日から木曜日は1日に2回、金曜日と土曜日は1日5回のセッションが行われる。なお、予約なしで神殿に参入した人は、座席に余裕のあるかぎり、セッションを受けることができる。

●神殿着の貸し出しは行わないため、参入者は持参する。ただし、死者のためのバプテスマを受ける人には衣装が用意される。

●神殿長会の第一副神殿長は神殿の記録者、第二副神殿長は神殿技術者の責任を果たす。

モンティチェロ神殿は、7月26日の日曜日に、ヒンクレー大管長の管理の下、奉献式が7回行われ、正式に奉献された。この当日はそのほかに2回、翌日の月曜日には4回、エンダウメントの儀式が執り行われた。そして7月28日の火曜日から、本来のスケジュールにのってセッションが行われている。

小規模の神殿は、教会員数が比較的少なく、近い将来人口の飛躍的な増加が見込まれそうもない地域に住む教会員の必要を満たすために建設される。ヒンクレー大管長は、現在、最も近い神殿への参入にも大変な距離の移動を余儀なくされる多くの教会員が、より容易に神殿に参入できるよう望んでいると語った。1998年の4月の総大会で、ヒンクレー大管長は、西暦2000年までに神殿の数が100に達するのを願っていることを明らかにした。□

『チャーチニュース』(Church News)の厚意により、1998年7月18日付けの記事より掲載。

家族は永遠に……「家族歴史まつり」開催される

エリヤの霊に満たされた大阪北ステーク

北上町子

家族歴史
キャンペーン 4

去る8月1日、大阪北ステークで第2回の「家族歴史まつり」が開かれました。「家族は永遠に」をテーマとして、家族歴史に関する行事が午後1時から夜9時まで続き、多くの兄弟姉妹とともに学び、行い、先祖をしのびました。

この「家族歴史まつり」は、「キリストのもとに来るようにすべての人を招く」という教会の使命の3つの側面の一つである「死者の贖い」の大切さを認識し、家族歴史活動を活発にすることを目的に、大阪北ステークの10人の家族歴史相談員が中心になって計画・準備したものです。地域家族歴史アドバイザーの津村又三郎兄弟、森村久男兄弟、古文書解読講師の三浦善一兄弟、伊丹延二兄弟をゲストにお迎えして、エリヤの霊に満たされた人たちとともに大阪北ステークセンター（岡町の教会堂）は活気にあふれました。



特別系図書込会

まず最初は特別系図書込会です。資料を手にした会員が次々とホールに集って来ました。10人の相談員と割り当てを受けた人たちがマンツーマンに対処しましたが手が足りず、みんなで教え合ったり、ゲストの方々にも助けていただいたりしました。とりわけ三浦兄弟や伊丹兄弟は、分からない字が出て来たときの「生き字引」として貴重な存在でした。参加者一人一人の顔が輝いて見えたのが印象的でした。

夕方からは古文書解読勉強会が開かれました。三浦善一兄弟を講師として、ちらしで募った兄弟姉妹とともにオリエンテーションが開かれました。用意

した30部の教材ではとても足りず、改めて古文書解読に対する関心の深さに驚かされました。



その後はファイヤサイドです。礼拝堂には「ふるさと」をイメージしたひまわり、すすき、野の花が生けられ、大きな東京神殿の絵も掛けられました。まず宣教師による「救いの計画」のオリエンテーションが行われました。彼らは、人生の目的や永遠の家族として結ばれるための神殿・家族歴史の大切さを分かりやすく説明してくれました。また天のふるさとへの思いを込めて帰還宣教師とともに「カントリーロード」を歌ってくれました。

続いて三浦善一兄弟に、改宗談や古文書とのふれあいについて語っていた

できました。また地域家族歴史アドバイザーの津村又三郎兄弟から、この夏帰省する会員のために墓標の写し取り方、先祖の探求法、記録・情報収集の大切さ、家族歴史活動がもたらす教会の使命の3つの側面についてお話がありました。アドバイザー補助の森村久男兄弟は神殿・系図の証とともに、神殿儀式の進行状況・系図提出状況などの興味深い資料をOHPを使って紹介し、

特に神権者の神殿参入の重要性を強調されました。

そして若い女性による聖歌隊の清らかな歌声とともに皆で「ふるさと」を歌い、最後に4人の兄弟姉妹によって証が述べられました。青少年の団体参入で受けた身代わりのバプテスマの喜び、神殿奉仕から得られた先祖の証、霊界で儀式を待ち望んでいる先祖の助けで系図資料が奇跡的な方法で手に入った経験などが分かち合われました。

多くの人たちの目に涙が浮かんでいました。懐かしいふるさとや先祖たちに思いをはせ、儀式を待ち望む先祖の期待と喜びの思いに胸が熱くなりました。家族歴史活動を通して多くの人たちが先祖に目を向け探求の道を歩んでくださるよう、また一人でも多くの先祖が贖われるようにわたしは願っています。わたしたちに神殿が与えられている特権を心から主に感謝し、神殿の儀式にはこの世から永遠にわたって家族を結ぶ力があることを証します。(レポーター：きたがみ・まちこ ステーク家族歴史相談員)



資料の取り寄せ方、書き込みの方法など、家族歴史探求の具体的なかつ実際のノウハウをきめ細かく解説したパネル展示が旺盛。



若い女性による聖歌隊

地域家族歴史アドバイザー
津村又三郎

「**家**族歴史の探求」とは、自分の先祖を探求することだと考えている人が多いことでしょう。この人はわたしの父親です、この人は祖父です、といった続柄、いわばラインで先祖を探求してきました。しかし例えば藤原時代、平安時代までさかのぼって行くと、それぞれのラインは錯綜して、共通の先祖になってきます。先日掲載された石坂春美姉妹の証にもあるように、教会員同士の先祖が共通であったことが調べるうちに分かったりします(「チャーチ・ニュース」『聖徒の道』1998年9月号, 13)。そこまで行くと、教会員同士で家族歴史を協力して探求するという段階に入ることになります。

自分の直系4代の記録の提出が終わったら、ワード・支部の会員の探求を手伝ってあげましょう。神殿の儀式も手伝ってあげましょう。例えばある兄弟が30人くらいの家族ファイルを提出したとします。しかし一人では儀式に大変時間がかかる。そんなときは、声をかけ合って喜んでお手伝いしてあげてください。探求も儀式も、ワードやステーク単位できっちり計画を立ててお手伝いができればいいですね。

人名抄出プログラム

それが進むと今度は、これまで何度か紹介された「人名抄出プログラム」というものがあります。ステーク単位の取り組みになりますが、これに参加することができます。

自分の先祖を調べていてある程度まで行くと、途中で記録が途切れてしまうことがあります。ところが江戸時代には、村に残されたいわゆる古文書をはじめとする様々な史料がほかにもたくさんあります。これらの個々の記録だけでは十分な系図情報を得ることはできませんし、わたしたちの先祖かどうかの続柄を知ること困難な場合がほとんどです。

こうした場合は、これまで行ってき

21世紀の家族歴史活動へ

……共通先祖を探求する……

た自分の先祖というライン(線)で追いかけて行くのではなく、例えば江戸時代に住んでいた何々村の人たち、というような「面」の形で捉えてみるができます。それが人名抄出プログラムの考え方です。この方々はわたしたちの共通先祖だと考えられますから、自分の先祖の探求が終わった人たちは人名抄出プログラムに参加することによってより多くの共通先祖の救いの業に携わるといことになるでしょう。

共通先祖を共同作業で

また同じ教会員の中に例えば山田さんが何人もいます。もしかしたらお互いはどこかで何かつながりがあるかもしれません。そこで、「全国山田会」といったものを組織してお互いに情報を交換するのです。お互いが持ち寄った情報を調べてみれば、ほかの山田さんの調べた先祖の中に、自分と親戚の関係に当たる人がいるかもしれません。後から山田会に入った人は、調べなくてもここまでは分かる、ここから上だけを調べればいい、ということになる。こういう形でも相互協力ができるのです。

個人で調べるのも大事ですが、共同で作業して共通先祖を調べていくという考え方がこれからは必要になってきます。この考え方はすでにアメリカでは以前から行われています。パソコンを使って、共通先祖の情報にアクセスできる。日本でもそういうことができるように今から準備していってほしいと思います。

わたしたちの責任——21世紀に向けて

わたしたちの基本的な第一の責任は、まず、自分と自分の伴侶や子供、両親、兄弟姉妹が必要な儀式を受けるといことです。バプテスマを家族に施し、神殿で自身のエンダウメントを受け、自分の伴侶と結び固めを受けること、また、常に最新の神殿推薦状を持っていること、定期的に神殿に参入すること——神殿に参入する資格を備えてい



ることは清い生活と信仰を實踐していることの証明だと思えます——それから次に戸籍謄本などで情報が簡単に入手できる人々の儀式を受けてあげること。ここまでが基本的なわたしたちの責任だと強調されています。ですからこれまで出てきた人名抄出プログラムや、20代30代と先祖をさかのぼっていくこと、神殿宣教師として、あるいは家族歴史図書館のボランティアとして奉仕することなども、もちろん大切なことですが、自分の身近な先祖の救いを第一に優先して行うことを忘れてはなりません。

アメリカにある「ファミリーサーチ」(FamilySearch)®のような系図探求用のコンピューターシステムが早く日本にも導入されたらよいのと思う人は大勢いることでしょう。すでに個人的に家族の記録を作成するためのコンピューターソフトを使用している会員もいます。

アメリカで使われているシステムでは、幾つもの大きなデータベースが利用されています。例えば、2億6,000万人以上の神殿儀式と個人情報が見られる「国際系図索引」(IGI)®, 戦没者の情報が分かる「ミリタリーレコード」(Military Records), 教会外の団体と協力して収集した「チャーチレコード」(Church Records), 個人が提供した家系図情報をまとめた「アンセストラルファイル」(Ancestral File)™などです。これらの情報は教会員以外の人でも自由に利用することができます。ここまで来るためにはアメリカの会員たちの長い年月にわたる協力が奉仕がありました。また教会員



ではないけれど、家族歴史活動に協力して下さる多くの方々の支援がありました。家族

歴史の探求を通して教会に改宗する人々もたくさんありました。

これから日本でもアメリカのようなシステムを展開するためには、皆さんの協力が必要です。情報を集めるのも、データをコンピューターに入力するのもわたしたち全員の協力が欠かせません。そしてお互いが大切な先祖の救いのために働くことができます。

「私たちはこれからも死のとばりの向こうに去って行った人々に手を差し伸べるというほかに類するものない愛

のみ業、すなわち神殿のみ業を行っていきます。これほど大きな愛の行為がほかにあるでしょうか。このことは、私たちすべての者のために身代わりの犠牲となって命を捧げられた主の精神に、ほかのいかなる業よりも近いものです。この愛のみ業はキリストのみ名によってなされるものであり、その救いは万人に及ぶものです。」(ゴードン・B・ヒンクレー『愛と親切の手を差し伸べる』『聖徒の道』1983年1月号、140)(終)(つむら・またさぶろう)

ホームメイキングのアイデアをヒント

先祖を覚えるマスコット作り

大阪北ステーク箕面ワード
阪本晴子



家族のさずなを強め、霊を喜ばせるマスコットを作りましょう。これは神殿推薦状のケースに入る大ききの携帯用直系4代系図表です。常に先祖を覚えるために身に付けておかれてはいかがでしょうか。

*

今年の4月18日に、1957年に改宗して以来忠実に歩んできた主人が亡くな

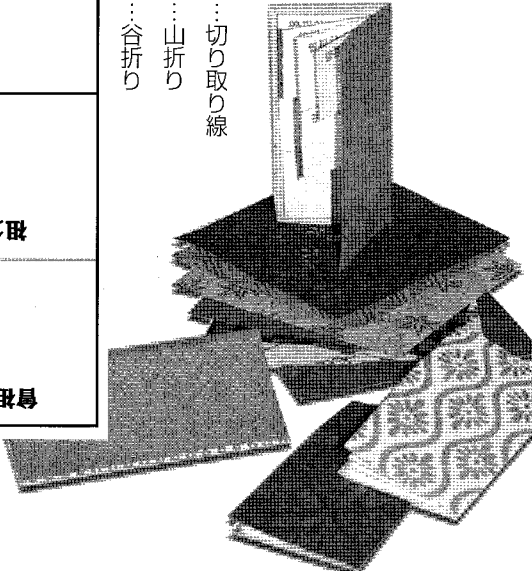
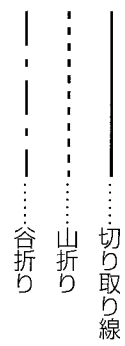
りました。彼のことをアメリカ在住のたくさんの友人・知人にお知らせしたいとの思いで、この7月に渡米いたしました。ロスの友人宅を経て、ユタ州パウンティフル神殿に近いトッド兄弟のお宅にお世話になりました。彼は1948年から1954年ごろまで大阪・新潟などで働かれた宣教師でした。神殿宣教師としてもご夫婦で奉仕されました。

彼の家へ到着した日、地下室で直径1.2メートルほどの円形に描かれた家系図を見せていただきました。約20代にわたるご夫妻の直系の系図でした。2代、3代とだんだん大きな円弧を描いて細かい文字で記入されていました。このような表記法を目にするのは初めてで感動いたしました。彼らと同じようにはできなくとも、わたしも何か先祖

に対する思いを表現してみたいと思い

曾祖父(父方)	曾祖母(父方)	曾祖父(母方)	曾祖母(母方)
D のり	祖父	祖母	祖母(父方)
G のり	父	母	(母方)祖母
(母方)曾祖母	(母方)曾祖母	(母方)曾祖母	(母方)曾祖母

1図(台紙)



↑天

立ち、主に良い知恵を与えてくださるよう心から祈り求めました。その夜、燃えるような御霊の感覚とともにイメージがわき、夜中から空が白み始めるころまでかかって最初の作品が出来上がりました。その朝早速トッド兄弟にお見せすると、どんなに喜んでくださったことか。わたしも感激いたしました。

その後何回も改良を重ね、現在の形に至りました。このマスコットを、ホームメイキングや家庭の夕べの活動で取り上げていただき、ご先祖について語らいながら楽しく作ることで、会員の皆さんの家族歴史探求の心を鼓舞するのに少しでも役立ってくれればと願っております。(さかもと・はるこ)

2図 (1図台紙の裏面)

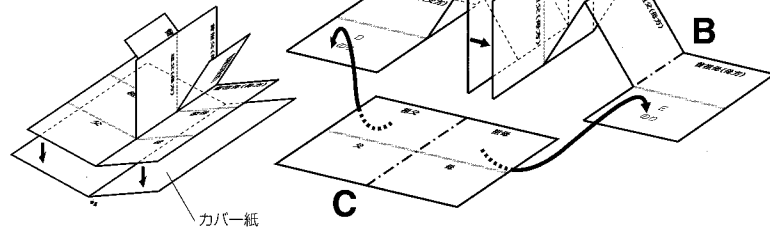
1 天	C のり	A のり	A' のり	
	C のり	E' のり	D' のり	
	90 C			
	90 C	90 B	90 B	

用意する物—台紙のコピー、カッター、
 定規、のり、鉛筆、ハサミ
 準備—まず前ページの1図(台紙)のコピーを取る。(原寸大)
 ※コピー用紙には、ファンシーペーパー系の紙を用いると仕上がりが美しい。ただし、比較的薄手の紙を使用すること。

作り方

1. 外縁の実線(切り取り線)を切り取る。
2. その紙を裏返し、2図の記号を薄い鉛筆で書き写す。(天地を間違えないよう注意!)
3. 残りの実線を切り取り、3片に切り分ける。
4. 点線は山、破線は谷に折り曲げる。
5. AとA'、BとB'、CとC'をのり付けし、長方形の小片を、DとD'、EとE'を合わせて挟み込む。

6. 完成図のように形を整え、カバー紙を付けて出来上がり。カバー紙は和紙の千代紙などを使うと美しい。



記入例

曾祖父(父方)	
1863年10月20日	← 生年月日
鈴木義三郎	← 先祖の名前
1934年9月16日	← 死亡年月日

……わたしの証……

主の知恵にすべてをゆだね

シュタイナー教育理論と初等協会のはざままで

高崎ステーキ熊谷ワード
 矢谷希夜子

わたしは山がとても好きです。大自然との出会いの中に、自分がどこまでも深く溶け込み無になるという凝縮された時間を見いだすことができます。生と死が隣り合うようなヨーロッパやヒマラヤでの登山は、努力により得られる喜びを教えてくださいました。山は、わたしを豊かに成長させてくれる土台でした。

あるとき、登山道から外れた奥深い沢で10日ほどを過ごしたことがあります。食料のない状態で刻々と時が流れ、いつしか心は平静を保てなくなりまし

た。3日を過ぎるころには空腹が極限に達し、ただ欲にのみ駆られ、生き残るためには手段を選ばない状態でした。しかしそれを通り越すと、空腹はもはや感じず、手足は付いているのだけれど付いていないような奇妙な感覚の中で、不思議と温かなこの上ない至福に包まれたのです。この奥深い山の中では家や車などこの世的な物質は何の役にも立ちません。わたしを助け生かしてくださったのは神様の愛だったのです。わたしは感謝の心に満たされました。すべての創造物がいとおしく、

蛇やむかでさえも温かく感じられました。ともに神様の愛で生かされていたからです。わたしはこのときの強烈な体験が忘れられず、神様の愛を常に感じたい一心で教会の門をたたきました。バプテスマを受けたばかりのわたしでしたが、幼いころから学んでいたピアノを通して、ステーキ大会でのピアノ伴奏をはじめ様々な成長の場が与えられました。そうした責任を果たすことはわたしにとって大きな喜びであり、心洗われる瞬間の連続でした。大会では緊張して練習のときのようには

弾けませんでした。ひたすら努力して練習した豊かな時間の結果を分かち合えたことはわたしにとって一生の思い出となりました。

しかしやがて、わたしの信仰生活に大きな壁が立ちました。それは子供たちの教育の問題でした。7歳と4歳のわたしの子供たちは、それまでシュタイナーの教育理論を土台としたプログラムを実践していました。自給自足を基本とし、子供たちとともに収穫から食事作りまでを考え、およそ市販のお菓子など口にしたこともありません。また一方的に情報を与えられる文字やテレビとは無縁な生活でした。与えられるのではなく自ら創造しながら生きる力を身に付けることに重点を置いていたからです。したがって初等協会では学ぶことも、一方的に与えられるという印象が強く最初は納得できませんでした。子供たちには子供たちの人格があり、8歳でパプテスマと固定されるものではない、自ら求めたときに改宗すればよいと考えたのです。しかし初等協会を含めて教会の基本は家族にあり、親としての責任を考えたとき、子供を集めせないことに非常な罪悪感を感じ葛藤の日々が続くようになりました。そして迷いを重ねるうちに、教会の方針に従えないことでこんなにも悩むのならいつそ二度と行くのをやめようと決心するに至ったのです。教会に集まなくても聖文を読み祈れば救われると自らを納得させ、その旨をホームティーチャーの兄弟に伝えたのでした。

その後わたしは教会に足を向けない日々を過ごしました。聖典を聞くごとに、朝夕の祈りの度に、イエス様の福音が広がり打ちのめされながらも、心のかたくななわたしは主の喜ばれることを第一とせず、自分の考えで歩んでいました。聖餐会の時間にも保育仲間とともに今までどおりのプログラムを実行していました。このころのわたしにとって福音とは単なる生活の指針にすぎず、主に対する証も弱いものだったのです。そんなわたしを心配したホームティーチャーの兄弟から、ある日

思いやりに満ちた温かなメッセージが届きました。兄弟は決してわたしの行動を批判せず、逆にすばらしい考えだと言われました。そのために、シュタイナーの理論まで調べ上

げてくださったのです。そしてそのうえでさらに力強くイエス様について証を述べ、わたしのためにお祈りしてくれる旨を伝えてくださいました。人間の知恵は主の知恵に比べれば不完全ではかないこと（イザヤ55：8—9参照）、大切なのは自分の思いではなく主の御心のままになることで、そこにわたしたちのほんとうの望みもあると論じてくださったのです。

そのとき、わたしはわたしの人生を思いのままにつくろうとしていたけれど、主は別の器を造ろうとしておられるのかもしれない（エレミヤ18章参照）と思い至りました。ほんとうに大切なことは何かと深く考えれば考えるほど、思いの行き着く先はイエス様のものでした。しかし現実の教育問題に対してどう対処したらよいか答えを見いだすこともできず、ただ繰り返し祈るばかりの毎日でした。ホームティーチャーだけでなく、教会に足を向けようとしていないわたしを心配したたくさんの兄弟姉妹から毎日のように電話が鳴り響き、皆温かい言葉をかけてくださいました。その思いやりに感謝しつつもなお迷い続けるわたしでした。

そんなある日のこと、いつになく穏やかで静かな時間が流れていました。わたしはひざまずき目を閉じて祈りました。するとどこまでも深く沈んでいくような感覚の中で一筋の光を感じたのです。そして今までに経験したことのない、確信に満ちあふれた喜びが広がりました。その瞬間、今までの自分がはっきりと間違っていたこと、さらに自分は今何をすべきかということがすべて理解できたのです。



シュタイナーの教育と初等協会が両立できないと悩んでいたことがそもそも大きな間違いだったのです。両立できるか否かはわたしの決めることではありません。主によってすべての道は備えられており、そのすべてを従順に受け入れることから成長が始まることに気づいたのでした。一部を受け入れてもすべてを受け入れることから逃げたら成長は止まり進歩を続けることはできません。それまでのわたしにとっては、音楽や山という限られた世界で向上することがすなわち成長でした。そしてほかのことは無視するという傲慢にとらわれていたのです。

ともに保育を実践している友人たちは一様に教会を否定します。地域のスポーツ仲間は、日曜日の大切な練習をせずに教会に集っては結果が出せないと反対します。しかし福音はすべての土台であり、大事なものは練習よりも教会に集い聖餐を受けることなのです。何よりも神様と自分の交通がしっかりしていれば、すべてを乗り越えて行けるのです。わたしは教会に反対する友人や周りの多くの仲間に、今よりもっと模範を示し、結果を出すことで福音生活のもたらす喜びを伝えたいし、福音があつてこそより成長できたことを証したいと思っています。

教会に背を向けたわたしに対して兄弟姉妹は温かく助けてくださり、心から心配してくださり、確固とした証を通してわたしが真実を見いだせるように助けお祈りしてくださったことにほんとうに感謝しています。わたしも最後まで主の証人として歩みたいと思っています。（やたに・きよこ）

専任宣教師

1998年9月(228期生)8人 ●上から氏名、任地(伝道地)、出身ユニット



いちはし ゆかり
市橋由佳里
岡山伝道部
名古屋ステーキ
野並支部



かわむらしゅういち
川村修一
仙台伝道部
静岡ステーキ
富士ワード



きい ひろみ
喜井ひろみ
札幌伝道部
東京ステーキ
国立ワード



きくち えみ
喜納英美
福岡伝道部
長野地方部
諏訪支部



おのづか かなえ
小峰かなえ
岡山伝道部
町田ステーキ
藤沢ワード



さいとう りんたろう
佐藤聡志
東京南伝道部
大阪ステーキ
東大阪ワード



まえだ みき
前田美佳子
福岡伝道部
静岡ステーキ
浜松ワード



まき あいじろう
牧愛慈郎
名古屋伝道部
横浜ステーキ
鶴見ワード

ブックセンターだより

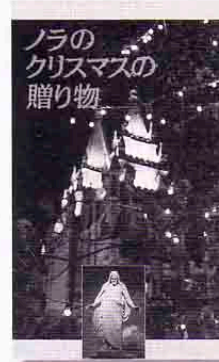
新刊
紹介



国々への旗 (ビデオカセット)

カタログ番号: 53980 300
VHS 60分 日本語 定価800円 ●新刊

末日聖徒イエス・キリスト教会が全世界に発展し、成長していくという驚くべき預言の成就を検証したドキュメント。数か国において取材・撮影が行われ、ヨーロッパ・太平洋諸島・ラテンアメリカ・アジア・アフリカの聖徒たちの信仰・犠牲・忍耐を伝える感動的な物語が紹介されている。1998年10月の第168回半期総大会衛星放送時に放映された。



ノラのクリスマスの贈り物 (ビデオカセット)

カタログ番号: 53066 300
VHS 46分37秒 日本語 定価800円 ●新刊

ノラは、かつて人を助けることを喜びとした活気ある女性であったが、目や耳の障害に悩まされて自分を哀れみ人生をあきらめようとする。ところが、生まれつき盲目のジェニーから目や耳の障害を嗅覚や感触で補うことを教わり、少しずつ閉ざした心を開き始めた。そしてクリスマス、主からの贈り物をノラは受ける。……特別出演: タバナクル合唱団の音楽に彩られた美しいクリスマスの物語。日本語吹替版。

役員の変動

1998年9月8日から10月2日までに管理本部会員統計記録課に通知のあった役員の変動(敬称略)

- 盛岡地方部盛岡支部
支部長: 大林 恵
- 日本我孫子ステーキ
ステーキ会長: 吉村信之
第一副会長: 小森繁樹
第二副会長: 高西秀志
- 大阪ステーキ阿倍野ワード
監督: 勢志 昇
- 大阪ステーキ平野ワード
監督: 榎南史朗
- 日本旭川ステーキ
ステーキ会長: 富士勝夫
第一副会長: 岩山勝幸
第二副会長: 高杉保夫
- 日本釧路地方部
地方部長: 島田由二
第一副部長: 平田篤人
第二副部長: 加藤敏行
- 東京東ステーキ千葉ワード
監督: 伊佐善明
- 東京東ステーキ八千代ワード
監督: 鈴木正則
- 東京東ステーキ長生ワード
監督: 杉本圭司
- 東京東ステーキ稲毛ワード
監督: 鈴木清和

皆さんの原稿を募集しています

◎ご投稿の際には連絡先(住所・電話番号・ファックス番号)、教会での責任(役職名)、所属ユニット名を記入し、できれば写真(投稿者または投稿内容に関連するもの)を同封のうえお送りください。採用された原稿は編集の際、要約や手直しをさせていただくことがあります。

◎お願い——海外に召される日本人宣教師を紹介いたします。伝道の召しを受け取り次第、編集室に写真を添えてお知らせください(氏名〔フリガナ〕、伝道部名、MTC入所予定月を明記)。

◎あて先: 〒106-0047 東京都港区南麻布5-10-30 末日聖徒イエス・キリスト教会 『聖徒の道』編集室
TEL.03(3440)2666 FAX.03(3440)3275